



Cisco Catalyst Center Global Manager リリース 1.2.1 導入ガイド

最終更新：2025 年 10 月 25 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章

Catalyst Center Global Manager の概要 1

Cisco Catalyst Center Global Manager 1

対象読者 2

第 2 章

導入要件 3

CRS プロファイルを自動生成するための発注を作成する 3

ファイアウォールポートとセキュリティ 4

追加の要件 6

第 3 章

展開の準備 9

展開の準備 9

VMware のインストール 9

Catalyst Center Global Manager の OVA をダウンロード 10

エンタープライズ インターフェイスの予約 10

IdenTrust 証明書チェーンのインポート 10

DNS、NTP、およびプロキシサーバーの準備 11

ストレージ入出力制御の有効化 12

第 4 章

Catalyst Center Global Manager の導入 13

VMWare ESXi における Catalyst Center Global Manager VM の展開 13

展開モード 13

Catalyst Center Global Manager VM を作成 14

Catalyst Center on ESXi 仮想アプライアンスにおける Catalyst Center Global Manager の設定 16

maglev 構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定：デフォルトモード 16

maglev 構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定：詳細モード	21
Web インストール構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定	25
Web インストール構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定	30

第 5 章

はじめに 35

Catalyst Center Global Manager にログインして実行する 35

Catalyst Center を CRS に始めて登録する 38

サイト階層 39

 サイトの名前を変更 40

概要ダッシュボードからのモニタリング 42

 コントローラの状態を監視する 43

 ネットワークステータスの変化を監視する 43

 デバイスの正常性の監視 44

アラート 45

デバイスインフラストラクチャ 45

 デバイスヘルス 46

 ソフトウェア定義型アクセス 47

エンドポイント 47

状況対応ダッシュボード（ベータ版） 48

 ダッシュボードの作成 49

コントローラ 50

 コントローラへの相互起動 55

 システム 360 55

 システムヘルス 55

 ソフトウェア管理 56

グローバル検索 56

Workflows 57

開発者用ツールキット 57

アクティビティ 58

システム 59



第 1 章

Catalyst Center Global Manager の概要

- [Cisco Catalyst Center Global Manager \(1 ページ\)](#)
- [対象読者 \(2 ページ\)](#)

Cisco Catalyst Center Global Manager

Catalyst Center Global Manager プラットフォームは、複数の Catalyst Center を簡単に管理するためのペイン管理 (SPoG) インターフェイスを提供します。Catalyst Center Global Manager は、さまざまな Catalyst Center プラットフォームからの情報を集約します。

Catalyst Center Global Manager の主な機能は次のとおりです。

- 接続されているすべてのコントローラのすべてのサイト、インベントリ、およびアラートを集約した統合ビュー。
- 管理効率の向上。

Catalyst Center Global Manager は、パフォーマンスの低いサイトだけでなく、アラートや可視性も含めた、ネットワークステータスの変化の概要を提供します。接続されている Catalyst Center によって報告された、次の概要を表示およびモニターできます。

- ルーティング
- スイッチング
- ワイヤレス
- エンドポイント
- ソフトウェア定義型アクセス

Catalyst Center Global Manager は、最大 25 台のコントローラと最大 10 人のアクティブユーザーをサポートします。これらのコントローラは、Catalyst Center Global Manager に登録されると、引き続きネットワークをモニターおよび制御します。

Catalyst Center Global Manager にはグローバル検索機能があり、IP アドレス、ホスト名、MAC アドレス、ソフトウェアバージョン、クライアントユーザー名、アプリケーション名、サイト名などの多くの属性でデバイスまたはクライアントを検索できます。これにより、Catalyst

Center のクライアントまたはデバイスの 360 度ビューに相互起動できます。両方のシステムに同じユーザが存在する場合は、ユーザー名とパスワードを再度入力することなく、Catalyst Center インターフェイスに相互起動できます。パスワードはそれぞれ異なっている場合があります。

対象読者

このガイドは次の方を対象としています。

- Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスを展開し、コントローラを接続し、さらなる構成を可能にするために他のユーザーへのアクセスのプロビジョニングを担当するシステム管理者。
- 単一画面での一元管理（SPOG）にて、集約されたネットワークの詳細とコントローラの状態を監視するネットワーク管理者。
- エンタープライズ規模のネットワーク インフラインフラストラクチャの管理や運用を担当するユーザーまたはオペレータ。



第 2 章

導入要件

- CRS プロファイルを自動生成するための発注を作成する (3 ページ)
- ファイアウォールポートとセキュリティ (4 ページ)
- 追加の要件 (6 ページ)

CRS プロファイルを自動生成するための発注を作成する

Catalyst Center Global Manager について、適切な最小在庫管理単位 (SKU) を選択していることを確認します。Catalyst Center Global Manager を発注するには、有効なスマートアカウント (SA) とバーチャルアカウント (VA) も必要です。



(注) Catalyst Center Global Manager を登録するには、発注を行う SA および VA に属している必要があります。

Catalyst Center の Catalyst Center Global Manager への登録は、SA/VA ワークフローを使用して自動的に行われます。

Catalyst Center Global Manager の展開を開始する前に、まず発注を作成し、Cisco Commerce Workspace (CCW) を使用してライセンスを取得する必要があります。ライセンスのみを取得した後は、CRS ダッシュボードでクラウド登録サービス (CRS) プロファイルが自動的に作成されます。Catalyst Center Global Manager を発注すると、CRS プロファイルが自動的に作成されます。このプロファイルは、Catalyst Center Global Manager と Catalyst Center を登録するために必要です。



(注) Catalyst Center Global Manager を発注した後、CRS プロファイルが作成されるまでに 3 日間かかります。最初の登録時に、Catalyst Center Global Manager は CRS プロファイルに自己登録します。これにより、新しい Catalyst Center が Catalyst Center Global Manager IP を検出してシームレスに登録できるようになります。

CRS プロファイル

CRS プロファイルは、Catalyst Center Global Manager と Catalyst Center の両方の認証を担当し、自動登録に必要なすべてのメタデータを維持します。一元化された設定により、シスコクラウドサービスに Catalyst Center インスタンスを登録するプロセスが簡素化されます。

管理者は、次の情報を入力して、Catalyst Center Global Manager 内の CRS プロファイルを設定します。

- クラウドサービスのログイン情報（たとえば、Cisco SA の詳細情報）。
- セキュア通信のための認証トークンまたは証明書。
- インスタンスが登録されているシスコクラウドサービスのエンドポイントの詳細。

設定が完了すると、CRS プロファイルによって、オンプレミス Catalyst Center インスタンスとシスコクラウドサービス間にて、セキュアで継続的な通信が確保されます。



(注) Catalyst Center Global Manager ごとに、SA/VA を組み合わせた CRS プロファイルが 1 つだけ許可されます。

ファイアウォールポートとセキュリティ

- [Firewall Access] : ciscoconnectdna.com へのアウトバウンドアクセスを許可する必要があります。
- [Connectivity] : Catalyst Center Global Manager からコントローラ、およびその逆の接続が必要です。Catalyst Center Global Manager の場合、企業エディションでは 1 つのインターフェイスのみがサポートされます。
- サポートされるインフラストラクチャ :
 - 物理またはバーチャル Catalyst Center アプライアンス（単一ノード、高可用性（HA）または仮想アプライアンス（VA））。
 - VMware ESXi および vCenter（バージョン 7.0.x 以降）
 - Network Time Protocol（NTP）は、Catalyst Center Global Manager と Catalyst Center との間で同期するか、時差を 1 秒未満に保つ必要があります。
- [Ports needed to be opened] : ファイアウォールで次のポートが開かれていることを確認します。これらのポートをファイアウォールで開いて、CRS ポータルとの通信を有効にし、Catalyst Center Global Manager が Catalyst Center とグローバルにやり取りできるようにする必要があります。

Port	サービス名	目的	推奨処置
の管理または設定Catalyst Center Global Manager			

Port	サービス名	目的	推奨処置
TCP 443	UI、REST、HTTPS	GUI、REST、HTTPS 管理ポート。	ポートを開いておく必要があります。
TCP 2222	Catalyst Center Global Manager シェル	Catalyst Center Global Manager シェルに接続します。	ポートを開いておく必要があります。既知の IP アドレスを送信元に制限します。
TCP 9004	Web UI インストール	GUI ベースのインストールページ (Web ベースのオプション) を使用して Catalyst Center Global Manager をインストールする場合にのみ必要) を提供します。	ノードのインストールが完了するまでポートを開いておく必要があります。
Catalyst Center Global Manager から Catalyst Center および他のシステムへのアウトバウンド			
TCP 49	TACACS+	TACACS+ サーバーを使用した Cisco ISE など、外部認証を使用している場合のみ必要です。	TACACS+ サーバーを使用した外部認証を使用している場合のみ、ポートを開いておく必要があります。
UDP と TCP 53	DNS	DNS 名を IP アドレスに解決するために使用されます。	他のサービス (NTP DNS 名など) の IP アドレスの代わりに DNS 名を使用する場合は、ポートを開く必要があります。
UDP 123	NTP	Catalyst Center Global Manager では、指定したソースとの時刻の同期に NTP を使用します。	時刻の同期用にポートを開いておく必要があります。

Port	サービス名	目的	推奨処置
TCP 443	HTTPS	Catalyst Center Global Manager は、クラウドテザー アップグレード、Catalyst Center からの定期的なポーリング、CRS ポータルとの通信に HTTPS を使用します。	ポートを開いておく必要があります。
UDP 1645、1812	RADIUS	RADIUS サーバーを使用した外部認証を使用する場合のみ必要です。	Catalyst Center へのユーザーログインの認証に外部 RADIUS サーバーを使用している場合のみ、ポートを開いておく必要があります。
111	NFS	Assurance のバックアップに使用します。	ポートを開いておく必要があります。
2049	NFS	Assurance のバックアップに使用します。	ポートを開いておく必要があります。
20048	NFS	Assurance のバックアップに使用します。	ポートを開いておく必要があります。
TCP および UDP 32767	NFS	Assurance のバックアップに使用します。	ポートを開いておく必要があります。

追加の要件

Catalyst Center Global Manager を、VMware ESXi バージョン 7.x 以降にバーチャルマシン (VM) として展開します。

Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスを正常に展開するには、次の要件を満たす必要があります。VMware vSphere の最もパフォーマンスが重要な領域を対象とするパフォーマンスのヒントについては、次を参照してください。

- VMware vSphere Client 7.0 : 『[Performance Best Practices for VMware vSphere 7.0, Update 3](#)』 (PDF)
- VMware vSphere Client 8.0 : 『[Performance Best Practices for VMware vSphere 8.0](#)』 (PDF)

仮想マシンの最小要件

機能	説明
仮想化プラットフォームおよびハイパーバイザ	VMware vSphere (ESXi および vCenter Server を含む) 7.0.x 以降とすべてのパッチ。
プロセッサ	インテル Xeon スケーラブルプロセッサ (Cascade Lake 以降) または AMD EPYC Gen2 (2.1 GHz 以上のクロック速度)。 16 GHz が予約された 8 個の vCPU を VM 専用にする必要があります。
ハードディスクドライブ (HDD)	100 GB + 550 GB (HDD X 2)。
メモリ	16 GB RAM
I/O 帯域幅	180 MB/sec。
IOPS (1 秒当たりの入出力処理) レート	2000 ~ 2500 (5 ミリ秒未満の I/O 完了遅延)。
遅延	Catalyst Center Global Manager から Catalyst Center への接続 : 350 ミリ秒。
アクティブセッション (Active Sessions)	ネットワーク管理者が Catalyst Center Global Manager にログインするために最大 10 のアクティブユーザー接続がサポートされています。

サーバー要件

機能	説明
vCenter と ESXi	7.0.x 移行
Intel CPU	2.1 GHz 以上

サポートされるブラウザ

Catalyst Center Global Manager の GUI は次の HTTPS 対応ブラウザと互換性があります。

- Google Chrome : バージョン 134 以降
- Mozilla Firefox : バージョン 120.0.1 以降

画面解像度 :

- 最小 : 1368 x 768 ピクセル
- 推奨 : 1920 X 1080 ピクセル

Catalyst Center Global Manager へのログインに使用するクライアントシステムは、64 ビットオペレーティングシステムとブラウザを装備していることが推奨されます。

スケール番号

この表は、Catalyst Center Global Manager がサポートするコントローラ、ユーザー、サイトの数を示しています。

コンポーネント	サポートされる最大数
コントローラ	コントローラ 25 台
Users	アクティブユーザー 10 人
サイト	25,000（集約サイトの最大数） • 100（複数のコントローラ上のサイト） • 5（コントローラの最大数の同じサイト）

セキュリティの制限事項

Catalyst Center Global Manager は、次の分野における Catalyst Center の管理をサポートしていません。

- ディザスタリカバリ（DR）
- Federal Information Processing Standards（FIPS）
- IPv6 設定のみの構成
- エアギャップ構成

ユーザーアクセスロール

- ユーザーは、一致するユーザー名で Catalyst Center Global Manager と Catalyst Center の両方に存在する必要があります。
- アクセス権限は、個々の Catalyst Center から継承されます。



第 3 章

展開の準備

- 展開の準備 (9 ページ)
- VMware のインストール (9 ページ)
- Catalyst Center Global Manager の OVA をダウンロード (10 ページ)
- エンタープライズ インターフェイスの予約 (10 ページ)
- IdenTrust 証明書チェーンのインポート (10 ページ)
- DNS、NTP、およびプロキシサーバーの準備 (11 ページ)
- ストレージ入出力制御の有効化 (12 ページ)

展開の準備

Catalyst Center Global Manager を、VMware ESXi バージョン 7.x 以降にバーチャルマシン (VM) として展開します。

Catalyst Center Global Manager を VMware ESXi 仮想アプライアンスに展開するには、次の準備作業が必要です。

VMware のインストール

Cisco Catalyst Center Global Manager を ESXi で実行するには、VMware vSphere (ESXi および vCenter Server を含む) 7.0.x 以降とすべてのパッチが必要です。VMware vSphere のインストールおよび設定プロセスの概要には、[こちら](#)からアクセスできます。VMware vSphere をインストールしたら、仮想アプライアンスの OVA ファイルの展開に使用するコンピュータから到達できることを確認します。

Web ブラウザを使用して vCenter 7.0.x にアクセスし、Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスの OVA を展開できます。

Catalyst Center Global Manager の OVA をダウンロード



- (注) CCW を通じて Catalyst Center Global Manager を購入した場合、ソフトウェアをダウンロードできるようになるまでに 3 日間の待機期間があります。さらに、Catalyst Center Global Manager を購入した場合、初期セットアッププロセスで展開を実行する個人と同じ SA/VA に属する必要があります。ただし、OVA ファイルをダウンロードするユーザーは、別の SA/VA に属することができます。

Catalyst Center Global Manager を展開するコンピュータに、OVA ファイルをダウンロードします。シスコ提供のリンクから、Catalyst Center Global Manager の展開に使用する .ova ファイルをダウンロードします。OVA を Web サーバーでホストすることもできます。



- (注) .ova ファイルのサイズは約 23 GB です。ダウンロードにかかる時間はネットワークの帯域幅によって異なります。

エンタープライズ インターフェイスの予約

Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスを設定する前に、Catalyst Center Global Manager GUI にアクセスするための 10 Gbps エンタープライズ インターフェイスを 1 つ予約する必要があります。アプライアンスの設定時に入力する必要があるため、このインターフェイスの IP アドレスを書き留めます。



- (注) またインストールプロセスでは、ルーティング不可能な IP アドレスを使用して、クラスタ内 インターフェイスと呼ばれるセカンダリ インターフェイスを設定する必要があります。標準 インストーラでは、この IP アドレスは事前に定義されており、変更できません。ネットワークの重複によりこの IP アドレスを変更する必要がある場合は、高度な インストーラを使用します。

クラスタ内 インターフェイスの IP アドレスはシスコによって事前定義されているため、Maglev 構成ウィザードは設定プロセス中にこの情報を自動的に入力します。

IdenTrust 証明書チェーンのインポート

Catalyst Center Global Manager の OVA ファイルは、VMware のデフォルトのトラストストアに含まれていない IdenTrust CA 証明書で署名されています。そのため、ウィザードを完了する間に、[Deploy OVF Template] ウィザードの [Review details] ページに、無効な証明書を使用してい

ることが示されます。これを防ぐには、OVA ファイルを展開するホストまたはクラスタに IdenTrust 証明書チェーンをインポートします。

手順

-
- ステップ 1** 仮想アプライアンスをインストールする VMware ESXi ホストまたはクラスタで、Catalyst Center Global Manager の OVA ダウンロード先としてシスコが指定したものと同一場所から **trustidevcodesigning5-2.3.7.0-VA.tar.gz** をダウンロードします。Catalyst Center Global Manager
- ステップ 2** このファイルを解凍します。
- ステップ 3** vSphere Web クライアントにログインします。
- ステップ 4** **[Administration] > [Certificates] > [Certificate Management]** を選択します。
- ステップ 5** [Trusted Root Certificates] フィールドで、[Add] をクリックします。
- ステップ 6** [Add Trusted Root] ダイアログボックスで、[Browse] をクリックします。
- ステップ 7** ステップ 1 でダウンロードした証明書チェーン (**trustidevcodesigning5.pem**) に移動して、それを選択し、[Open] をクリックします。
- ステップ 8** [Start Root certificate push to vCenter Hosts] チェックボックスをオンにして、[Add] をクリックします。
- 証明書チェーンのインポートが成功したことを示すメッセージが表示されます。
- [Deploy OVF Template] ウィザードを完了すると、[Review details] ページの [Publisher] フィールドに、信頼できる証明書を使用していることが示されます。
-

DNS、NTP、およびプロキシサーバーの準備

Maglev 構成ウィザードで、次の 2 つの項目を指定するように求められます。

- Catalyst Center Global Manager がドメイン名を IP アドレスに変換するために使用するドメインネームシステム (DNS) サーバー。
- Catalyst Center Global Manager がクロックの同期に使用する Network Time Protocol (NTP) サーバー。NTP サーバーは Catalyst Center がアクセスできる必要がありますが、そうでない場合は、1 秒未満の時差で同期を維持する必要があります。

Catalyst Center Global Manager を設定する前に、次の手順を実行します。

- 使用するサーバーが使用可能であり、動作中であることを確認します。
- NTP サーバーの場合は、その IP アドレスまたはホスト名を取得します。
- プロキシサーバーの場合は、URL または IP アドレスまたはホスト名、およびログイン情報を収集します。

ストレージ入出力制御の有効化

仮想アプライアンスを展開する予定のデータストアについては、次の手順を実行して、ネットワークで入出力（I/O）の輻輳が発生しているときに、アプライアンスの仮想マシンのI/Oが他の仮想マシンよりも優先されるようにします。

手順

-
- ステップ 1** vSphere Client で、仮想アプライアンスを展開する予定のデータストアに移動して、そのデータストアをクリックします。
- ステップ 2** [Configure] タブをクリックし、[General] をクリックします。
- ステップ 3** [Datastore Capabilities] エリアで、[Edit] をクリックします。
- ステップ 4** [Configure Storage I/O Control] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- a) [Enable Storage I/O Control and statistics collection] オプションボタンをクリックします。
 - b) [Storage I/O congestion threshold] エリアで、使用する輻輳しきい値を設定します。
ピークスループットの割合（%）を指定するか、値（ミリ秒単位）を入力できます。
 - c) （任意）[Statistic Collection] エリアで、[Include I/O statistics for SDRS] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
-



第 4 章

Catalyst Center Global Manager の導入

- [VMWare ESXi における Catalyst Center Global Manager VM の展開](#) (13 ページ)
- [展開モード](#) (13 ページ)
- [Catalyst Center Global Manager VM を作成](#) (14 ページ)
- [Catalyst Center on ESXi 仮想アプライアンスにおける Catalyst Center Global Manager の設定](#) (16 ページ)

VMWare ESXi における Catalyst Center Global Manager VM の展開

このセクションでは、展開のモードと、ESXi 7.0 以降に Catalyst Center Global Manager VM を展開するために必要な手順を説明します。展開の前に、Catalyst Center Global Manager の OVA がダウンロードされていることを確認します。

展開モード

Catalyst Center Global Manager は、次を使用して展開できます。

- 構成ウィザードまたはコマンドライン インターフェイス (CLI)
- Web インストールまたはグラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI)

Catalyst Center Global Manager 展開には、次の機能があります。

- VM (VMware ESXi/ vCenter) に Catalyst Center Global Manager を展開する。
- CLI または Web インストールの 2 つの展開モードを使用して Catalyst Center Global Manager をインストールする。

Catalyst Center Global Manager VM を作成

OVF フォーマットのファイルを展開するには、VMware vSphere Web Client で [Deploy OVF Template] ウィザードを使用します。

仮想アプライアンスが存在する VMware ESXi ホストまたはクラスターで仮想マシンを展開するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 シスコが指定する場所から Catalyst Center Global Manager OVA ファイルをダウンロードします。

ステップ 2 該当するログイン情報を使用して VMware vSphere Web Client にログインします。

VMware vSphere Web Client ページが開きます。

ステップ 3 ナビゲーションペインで、OVA ファイルを展開するホストまたはクラスターの IP アドレスを右クリックし、[Deploy OVF Template] をクリックします。

[Deploy OVF Template] ウィザードが表示されます。

ステップ 4 [Deploy OVF Template] ウィザードを完了します。

a) [Select an OVF Template] ウィザードページで、展開に使用する OVA ファイルを指定し、[Next] をクリックします。次のいずれかの操作を実行できます。

- [URL] オプションボタンをクリックし、適切なパスおよび OVA ファイル名を入力します。このオプションを選択する場合は、OVA ファイルが Web アクセス可能な場所に保存され、その場所から共有されていることを確認してください。
- [Local file] オプションボタンをクリックして、[Upload Files] をクリックし、適切な OVA ファイルに移動して、それを選択します。

ウィザードの [Select a name and folder] ページが開きます。デフォルトでは、OVA のファイル名フィールドには、作成しようとしている OVA ファイルの名前が入力されます。さらに、パスには ESXi ホストまたはクラスターがリストされている Navigator ディレクトリ内の場所が表示されます。これは、ステップ 3 で選択した展開先に対応します。

b) デフォルト値を使用する場合は、[Next] をクリックし、手順 4c に進みます。

VM に名前を付ける、または VMware vSphere Web Client ディレクトリ内の別のフォルダの場所を選択するなど、必要に応じて別の値を使用する場合は、次の手順を実行します。

1. 作成する仮想マシンの名前を入力します。
2. 仮想マシンが常駐する場所を指定します。
3. [Next] をクリックします。

ウィザードの [Select a compute resource] ページが開きます。

- c) OVA ファイルを展開する ESXi ホストまたはクラスタ（手順3で右クリックしたもの）をクリックし、[Next] をクリックします。
- [Review details] ページが開き、展開テンプレートの詳細が一覧表示されます。
- d) テンプレートの詳細を確認し、次のいずれかを実行します。
- 変更を加える必要がある場合は、必要に応じて [Back] をクリックして適切なウィザードページに戻ります。
 - 続行する場合は、[Next] をクリックします。

ウィザードの [Select storage] ページが開きます。

- e) [Select storage] ページで、次の手順を実行します。
1. 使用するストレージデバイスのオプションボタンをクリックします。
 2. [Select virtual disk format] フィールドで、[Thick Provision] または [Thin Provision] オプションを選択します。
- （注）
ここでは [Thick Provision] が推奨されます。
3. [VM Storage Policy] ドロップダウンリストでは、[Datastore Default] のままにします。
 4. [Next] をクリックします。

ウィザードの [Select networks] ページが開きます。

- f) Catalyst Center Global Manager が使用するインターフェイスを割り当てるには、[Select networks] で、システムをエンタープライズ ネットワークに接続するインターフェイスを指定します。次の手順を実行します。
1. [VM Network] ドロップダウンリストで、システムをエンタープライズ ネットワークに接続するインターフェイスを選択します。
- （注）
このインターフェイス/IP アドレスは、Catalyst Center Global Manager への UI/ SSHアクセスと、コントローラとの接続の確立に使用されます。そのため、コントローラとの接続は、この IP を介して確保する必要があります。

Catalyst Center Global Manager VM では 1 つの NIC のみがサポートされます。

2. [Next] をクリックします。

[Ready to complete] ウィザードページが開き、入力した展開設定の概要が表示されます。

- g) 設定を確認し、次のいずれかを実行します。
- 変更を加える必要がある場合は、必要に応じて [Back] をクリックして適切なウィザードページに戻ります。
 - 設定に問題がなく、展開を続行する場合は、[Finish] をクリックします。

[Deploy OVF Template] ウィザードが閉じ、Catalyst Center Global Manager の展開がすぐに開始されます。

重要

- 通常、展開が完了するまでに約 45 分かかります。vSphere Client の [Recent Tasks] タブで進捗状況をモニターできます。
- 使用可能な帯域幅、vCPU、RAM とハードディスクの容量によって、このプロセスにかかる時間が左右されることがあります。
- タスクが完了したら、仮想マシンを起動して設定できます。

Catalyst Center on ESXi 仮想アプライアンスにおける Catalyst Center Global Manager の設定

Catalyst Center Global Manager を使用する前に、要件に応じて、関連するアプライアンス設定ワークフローを最初に完了する必要があります。VMware ESXi ホストで Catalyst Center Global Manager ESXi 仮想アプライアンスを設定するには、次のいずれかの手順を実行します。

maglev構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定：デフォルトモード

maglev 構成ウィザードを使用して仮想アプライアンスをできるだけ迅速に設定する必要があります。事前設定されたアプライアンス設定を使用しても問題ない場合は、次の手順を実行します。



(注) このウィザードを使用する場合、クラスタ内インターフェイスは事前設定されています。

始める前に

この手順を開始する前に、仮想アプライアンスに関する次の情報を収集します。

- スタティック IP アドレス
- サブネット マスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS アドレス
- NTP サーバーの詳細

- プロキシサーバーの詳細

手順

ステップ 1 展開が完了したら、新しく作成した仮想マシンの電源をオンにします。

- vSphere Client で、仮想マシンを右クリックします。
- [Power] > [Power On] を選択します。

仮想マシンを起動してから動作可能になるまでに約 45 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。VMware VM コンソールで進捗状況をモニターすることができます。

ステップ 2 適切なリンクをクリックして、リモートコンソールまたは Web コンソールを起動します。

ステップ 3 maglev 構成ウィザードを完了することにより、仮想マシンを設定します。

- ウィザードの [STATIC IP CONFIGURATION] ページでは設定を入力する必要がないため、[skip>>] をクリックして、CLI ベースのインストール時向けの次の画面に進みます。

maglev 構成ウィザードのようこそウィンドウが開きます。Catalyst Center Global Manager を選択して、Enter キーを押します。

- [Catalyst Center Global Manager Virtual Appliance] をクリックします。
- [Start using MKS pre manufactured cluster] オプションを選択します。

事前構成されたクラスターオプションを使用すると、インストール時間を短縮できますが、クラスターポートをカスタマイズできません。

- 事前構成されたクラスターオプションを選択します。maglev 構成ウィザードで一連の質問が表示されます。
 - これはエンタープライズアドレスです。その目的は、Catalyst Center Global Manager のネットワークとの通信および管理を有効にすることです。
 - [次へ (Next)] をクリックして、次の画面に進みます。これはクラスターのデフォルト IP アドレスです。ここで変更を行う必要はありません。
- 次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #1] の設定値を入力し、[next>>] をクリックして、ホストのネットワーク設定を検証するウィザードに進みます。

ホスト IP アドレス	エンタープライズポートの IP アドレスを入力します。
ネットマスク	IP アドレスのマスクを入力します。
デフォルト ゲートウェイの IP アドレス	ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。
スタティック ルート	デフォルトゲートウェイが入力されている場合、スタティックルートは必要ありません。

ウィザードは、DNS のステップの後に設定を検証します。エラーメッセージが表示された場合には、入力した値が正しいことを確認してから、再入力します。必要に応じて [<<back] をクリックして再入力します。このプロセスには、約 4 ～ 5 分かかります。

- f) [NETWORK ADAPTER #2] の設定値を入力する必要はありません。[NETWORK ADAPTER #2] はクラスターポートです。[pre manufactured] を選択すると、これらの値は事前に入力され、変更できません。[advance install] を選択した場合、必要なクラスターインターフェイス情報を入力してください。[next>>] を選択して処理を続行します。
- g) [DNS Configuration] ページで、優先 DNS サーバーの IP アドレスを入力し、[next>>] を選択します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。

重要

最大 3 つの DNS サーバーを設定します。仮想アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバーを設定すると、問題が発生する可能性があります。

- h) 次のいずれかを実行します。
 - 設定を変更する必要がある場合は、必要に応じて [<<back] を選択し、必要な変更を加えてから、このウィザードページに戻ります。
 - 入力した設定に問題がなければ、[proceed>>] を選択します。
- i) ネットワークアダプタの設定が完了すると、次に示すように、使用する [NETWORK PROXY] の設定値がウィザードで要求されます。
検証が正常に完了したら、次のいずれかを実行します。
 - ネットワークでプロキシサーバーを使用しないでインターネットにアクセスする場合は、[skip proxy>>] を選択して続けます。
 - ネットワークでプロキシサーバーを使用する場合、[NETWORK PROXY] ウィザードページに設定値を入力し（次の表を参照）、[next>>] を選択します。

[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)] フィールド	インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。 (注) Catalyst Center Global Manager から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。
[HTTPS Proxy Username] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザ名を入力します。プロキシログインが不要な場合には、このフィールドを空白のままにします。
[HTTPS Proxy Password] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインが不要な場合には、このフィールドを空白のままにします。

- j) (オプション) 次に、[MAGLEV CLUSTER DETAILS] ウィザードページで仮想アプライアンスの仮想 IP アドレスを入力するように求められます。エンタープライズインターフェイスに設定されている仮想 IP アドレスを入力します。

仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定することもできます。Catalyst Center Global Manager は、このドメイン名を使用して次のことを行います。

- このホスト名を使用して、仮想アプライアンスの Web インターフェイスと、Catalyst Center Global Manager が管理するエンタープライズ ネットワーク内のデバイスによって使用される Representational State Transfer (REST) API にアクセスします。

必要な情報を入力したら [next>>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

- k) ウィザードの [USER ACCOUNT SETTINGS] ページで提供される設定値を入力し (次の表を参照)、[next>>] を選択します。

[Linux Password] フィールド	maglev ユーザーのパスワードを入力して確認します。 (注) CLI パスワードポリシーに従い、新しいパスワードは過去 24 個のパスワードと異なる必要があります。
[Re-enter Linux Password] フィールド	Linux パスワードをもう一度入力して確認します。
[Password Generation Seed] フィールド	Linux パスワードを自分で作成しない場合には、このフィールドにシードフレーズを入力してから、 [パスワードの生成 (Generate password)] を押してパスワードを生成します。
[Auto Generated Password] フィールド	(オプション) シードフレーズは、ランダムで安全なパスワードの一部として表示されます。必要に応じて、このパスワードを「そのまま」使用することも、この自動生成パスワードをさらに編集することもできます。 [<Use Generated Password>] を押してパスワードを保存します。

必要な情報を入力したら、検証エラーを修正して続行します (必要な場合)。

- l) ウィザードの [NTP SERVER SETTINGS] ページで提供される設定値を入力し (次の表を参照)、[next>>] を選択します。

[NTP Server (NTP サーバ)] フィールド	1 つまたは複数の NTP サーバアドレスまたはホスト名をスペースで区切って入力します。1 つ以上の NTP アドレスまたはホスト名が必要です。実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定することを推奨します。Catalyst Center と Catalyst Center Global Manager は、共通の NTP を使用するか、最大 1 秒の時間差で同期を実現する必要があります。 (注) NTP の場合、Catalyst Center Global Manager と NTP サーバの間のポート 123 (UDP) が開いていることを確認します。
[NTP Authentication] チェックボックス	Catalyst Center Global Manager と同期する前に NTP サーバの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。 • NTP サーバのキー ID。有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 ($2^{32}-1$) です。 この値は、NTP サーバのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 • NTP サーバのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバのキーファイルにあります。 (注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバのキー ID とキー値を入力してください。

必要な情報を入力したら、検証エラーを修正して続行します（必要な場合）。

ウィザードが設定を適用できる状態になったことを示す最終メッセージが表示されます。

- m) 入力した設定を仮想アプライアンスに適用するには、[proceed>>] を選択します。

設定プロセスの完了後に、仮想アプライアンスの電源を再投入すると、「CONFIGURATION SUCCEEDED!」というメッセージが表示されます。次に、maglev ログインページが表示されます。

(注)

サービスが安定して、仮想アプライアンス GUI にログイン可能になるまでには 15 ～ 30 分かかります。

maglev 構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定：詳細モード

maglev 構成ウィザードを使用して仮想アプライアンスを設定し、事前設定されたアプライアンス設定とは異なる設定を指定する必要がある場合は、次の手順を実行します。

始める前に

この手順を開始する前に、仮想アプライアンスに関する次の情報を収集します。

- スタティック IP アドレス
- サブネット マスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS アドレス
- NTP サーバーの詳細
- プロキシサーバーの詳細

手順

ステップ 1 展開が完了したら、新しく作成した仮想マシンの電源をオンにします。

- a) vSphere Client で、仮想マシンを右クリックします。
- b) **[Power]** > **[Power On]** を選択します。

仮想マシンが動作可能になるまでに約 45 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。vSphere Client の **[Recent Tasks]** タブで進捗状況をモニターできます。

ステップ 2 適切なリンクをクリックして、リモートコンソールまたは Web コンソールを起動します。

ステップ 3 maglev 構成ウィザードを完了することにより、仮想マシンを設定します。

- a) ウィザードの **[STATIC IP CONFIGURATION]** ページでは設定を入力する必要がないため、**[skip>>]** を選択します。
- b) **[Create Catalyst Center Global Manager Virtual appliance]** をクリックします。
- c) **[Start configuration of MKS in advanced mode]** オプションを選択します。

次のウィザードページが開き、事前設定されたすべてのアプライアンス設定（コンテナとクラスタのサブネットを除く）が消去されることが示されます。これらの設定の値を入力する必要があります。

このページには、このオプションを選択した場合に、戻ってデフォルトのアプライアンスセットアップワークフローを代わりに使用することができなくなることも示されます。次の手順を完了する前に、この点に留意してください。

- d) [proceed>>] を選択します。
- 事前設定されたすべてのアプライアンス設定が消去された後、次のウィザードページが開きます。
- e) [next>>] を選択します。
- f) [Layer2 mode used for the services] ウィザードページでは設定を入力する必要はないため、[next>>] を選択します。
- g) 次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #1] の設定値を入力し、[next>>] を選択します。

Catalyst Center Global Manager は、このインターフェイスを使用して、仮想アプライアンスをネットワークにリンクさせます。

[Host IPv4 Address] フィールド	エンタープライズインターフェイスの IP アドレスを入力します。これは必須です。
[IPv4 Netmask] フィールド	インターフェイスの IP アドレスに対応するネットマスクを入力します。これは必須です。
[Default Gateway IPv4 Address] フィールド	インターフェイスに使用するデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力します。
[IPv4 Static Routes] フィールド	1 つ以上のスタティックルートをスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ> の形式で入力します。
[Cluster Link] フィールド	このフィールドは空欄のままにします。これは、クラスタ内インターフェイスでのみ必要です。
[LACP Mode] フィールド	仮想アプライアンスには適用されないため、このフィールドは空白のままにします。

入力した値がウィザードによって検証され、正しくない値が含まれていた場合にはエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合には、入力した値が正しいことを確認してから、再入力します。必要に応じて、[<< back] を選択して再入力します。

- h) [DNS Configuration] ページで、優先 DNS サーバーの IP アドレスを入力し、[next>>] を選択します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。

重要

最大 3 つの DNS サーバーを設定します。仮想アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバーを設定すると、問題が発生する可能性があります。

- i) 次のいずれかを実行します。
- 設定を変更する必要がある場合は、必要に応じて [<< back] を選択し、必要な変更を加えてから、このウィザードページに戻ります。
 - 入力した設定に問題がなければ、[proceed>>] を選択します。
- j) ネットワークアダプタの設定が完了すると、次に示すように、ユーザの使用する [ネットワークプロキシ (NETWORK PROXY)] の設定値を入力するようウィザードから求められます。

[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)] フィールド	インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。 (注) Catalyst Center Global Manager から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。
[HTTPS Proxy Username] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザ名を入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。
[HTTPS Proxy Password] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。

検証が正常に完了したら、次のいずれかを実行します。

- ネットワークでプロキシサーバーを使用しないでインターネットにアクセスする場合は、[skip proxy>>] を選択して続けます。
- ネットワークでプロキシサーバーを使用する場合、[NETWORK PROXY] ウィザードページに設定値を入力し（上の表を参照）、[next>>] を選択します。

- k) （オプション）次に、[MAGLEV CLUSTER DETAILS] ウィザードページで仮想アプライアンスの仮想 IP アドレスを入力するように求められます。エンタープライズインターフェイスに設定されている仮想 IP アドレスを入力します。

仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名（FQDN）を指定することもできます。Catalyst Center Global Manager は、このドメイン名を使用して次のことを行います。

- このホスト名を使用して、仮想アプライアンスの Web インターフェイスと、Catalyst Center Global Manager が管理するエンタープライズ ネットワーク内のデバイスによって使用される Representational State Transfer（REST）API にアクセスします。Catalyst Center Global Manager

必要な情報を入力したら [next>>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

- l) ウィザードの [USER ACCOUNT SETTINGS] ページで提供される設定値を入力し（次の表を参照）、[next>>] を選択します。

[Linux Password] フィールド	maglev ユーザーのパスワードを入力して確認します。 (注) CLI パスワードポリシーに従い、新しいパスワードは過去 24 個のパスワードと異なる必要があります。
[Re-enter Linux Password] フィールド	Linux パスワードをもう一度入力して確認します。

[Password Generation Seed] フィールド	Linux パスワードを自分で作成しない場合には、このフィールドにシードフレーズを入力してから、 [パスワードの生成 (Generate password)] を押してパスワードを生成します。
[Auto Generated Password] フィールド	(オプション) シードフレーズは、ランダムで安全なパスワードの一部として表示されます。必要に応じて、このパスワードを「そのまま」使用することも、この自動生成パスワードをさらに編集することもできます。 [<Use Generated Password>] を押してパスワードを保存します。

必要な情報を入力したら、検証エラーを修正して続行します（必要な場合）。

- m) ウィザードの [NTP SERVER SETTINGS] ページで提供される設定値を入力し（次の表を参照）、**[next>>]** を選択します。

[NTP Server (NTP サーバ)] フィールド	1 つまたは複数の NTP サーバアドレスまたはホスト名をスペースで区切って入力します。1 つ以上の NTP アドレスまたはホスト名が必要です。実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定することを推奨します。Catalyst Center と Catalyst Center Global Manager は、共通の NTP を使用するか、最大 1 秒の時間差で同期を実現する必要があります。 (注) NTP の場合、Catalyst Center Global Manager と NTP サーバの間のポート 123 (UDP) が開いていることを確認します。
[NTP Authentication] チェックボックス	NTP サーバーが同期する前に NTP サーバーの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。 - NTP サーバーのキー ID。有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 ($2^{32}-1$) です。 この値は、NTP サーバーのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 - NTP サーバーのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバーのキーファイルにあります。 (注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバーのキー ID とキー値を入力してください。

必要な情報を入力したら、検証エラーを修正して続行します（必要な場合）。

ウィザードが設定を適用できる状態になったことを示す最終メッセージが表示されます。

- n) ウィザードの [MAGLEV ADVANCED SETTINGS] ページで提供される設定値を入力し（次の表を参照）、[next>>] をクリックします。

[Container Subnet] フィールド	内部サービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.32.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。別のサブネットを入力する場合は、Catalyst Center Global Manager の内部ネットワークまたは任意の外部ネットワークで使用されている他のサブネットと競合したり、重複したりしていないことを確認してください。詳細については、『 Catalyst Center Second-Generation Appliance Installation Guide's 』の「Required IP Addresses and Subnets」のトピックにあるコンテナサブネットの説明を参照してください。
[Cluster Subnet] フィールド	内部クラスタサービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.48.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。別のサブネットを入力する場合は、Catalyst Center Global Manager の内部ネットワークまたは任意の外部ネットワークで使用されている他のサブネットと競合したり、重複したりしていないことを確認してください。詳細については、『 Catalyst Center Second-Generation Appliance Installation Guide's 』の「Required IP Addresses and Subnets」のトピックにあるクラスタサブネットの説明を参照してください。

必要な情報を入力したら、検証エラーを修正して続行します（必要な場合）。

ウィザードが設定を適用できる状態になったことを示す最終メッセージが表示されます。

- o) 入力した設定を仮想アプライアンスに適用するには、[proceed>>] を選択します。

設定プロセスの完了後に、仮想アプライアンスの電源を再投入すると、「CONFIGURATION SUCCEEDED!」というメッセージが表示されます。

仮想マシンが動作可能になるまでに約 180～210 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。vSphere Client の [Recent Tasks] タブで進捗状況をモニターできます。

Web インストール構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定

ブラウザベースのインストール構成ウィザードを使用して仮想アプライアンスをできるだけ迅速に設定する必要があり、事前設定されたアプライアンス設定を使用しても問題ない場合は、次の手順を実行します。



重要 この手順の実行中に入力するすべての IP アドレスが有効な IPv4 ネットマスクを持つ有効な IPv4 アドレスであることを確認してください。また、アドレスと対応するサブネットが重複していないことを確認してください。重複している場合、サービスの通信の問題が発生する可能性があります。

始める前に

次の情報を収集したことを確認します。

- スタティック IP アドレス
- サブネット マスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS アドレス
- NTP サーバーの詳細
- プロキシサーバーの詳細

サポート対象のブラウザを使用していることを確認します。「サポートされているブラウザ」の詳細については、「[展開要件](#)」セクションを参照してください。

次の手順で指定する DNS サーバーと Catalyst Center Global Manager の間のファイアウォールで ICMP が許容されることを確認します。このウィザードでは、ユーザの指定する DNS サーバを ping で確認します。Catalyst Center Global Manager と DNS サーバの間にファイアウォールが存在し、そのファイアウォールで DNS サーバと ICMP が許容されていない場合、この ping がブロックされる可能性があります。ブロックされた場合、ウィザードを完了できません。

手順

ステップ 1 展開が完了したら、新しく作成した仮想マシンの電源をオンにします。

- a) vSphere Web Client で、仮想マシンを右クリックします。
- b) **[Power]** > **[Power On]** を選択します。

仮想マシンが動作可能になるまでに約 45 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。vSphere Client の [Recent Tasks] タブで進捗状況をモニターできます。

ステップ 2 適切なリンクをクリックして、リモートコンソールまたは Web コンソールを起動します。

ステップ 3 インストール構成ウィザードを開きます。

- a) [STATIC IP CONFIGURATION] ページで、次のいずれかを実行します。
 - [skip>>] を選択して、CLI ベースのインストールに進みます。

- 独自の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを仮想アプライアンスのエンタープライズインターフェイスに割り当てる場合は、次の表に記載されている情報を入力し、[configure>>] を選択します。

IPv4 展開の場合は、このチェックボックスをオフにする必要があります。

[IPv6 Mode] チェックボックス	IPv4 アドレッシングを使用するには、このチェックボックスをオフのままにします。
[IP Address] フィールド	使用する静的 IP アドレスを入力します。
[ネットマスク (Netmask)] フィールド	前のフィールドに指定した IP アドレスのネットマスクを入力します。ネットマスクまたは CIDR アドレスのいずれかを入力できます。
[Default Gateway Address] フィールド	トラフィックのルーティングに使用されるデフォルトゲートウェイを指定します。
[Static Routes] フィールド	このウィザードを使用する場合はスタティックルート指定できないため、このフィールドは空白のままにします。

[Web インストール (Web Installation)] フィールドにリストされている URL に注意してください。これは次の手順で必要になります。

- [Static IP Configuration] ページに表示された URL を開きます。
- [Start a Cisco Catalyst Center Global Manager] ラジオボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- [Install] オプションボタンをクリックし、[Start] をクリックします。

[Overview] ウィンドウが開きます。[>] をクリックして、ウィザードで実行するタスクの概要を表示します。

- [Start Workflow] をクリックしてウィザードを起動します。

[Virtual Appliance Interfaces] ページが開きます。

ステップ 4 インストール構成ウィザードを完了することにより、仮想アプライアンスを設定します。

- [Next] をクリックします。

[DNS Configuration] ページが開きます。

- [DNS] フィールドに、優先 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。追加の DNS サーバーを入力するには、[Add] (+) アイコンをクリックします。

重要

最大 3 つの DNS サーバーを設定できます。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。

- [Next] をクリックします。

[Configure Proxy Server Information] ページが開きます。

d) 次のいずれかを実行します。

- ネットワークでプロキシサーバーを使用しないでインターネットにアクセスする場合は、[No] オプションボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- ネットワークでプロキシサーバーを使用してインターネットにアクセスする場合は、次の表に示す値を入力し、[Next] をクリックします。

[プロキシサーバ (Proxy Server)] フィールド	インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。 (注) Catalyst Center Global Manager から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。
[Port] フィールド	アプライアンスがネットワークプロキシにアクセスするために使用したポートを入力します。
[Username] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザー名を入力します。プロキシログインがない場合には、このフィールドを空白のままにします。
Password フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインがない場合には、このフィールドを空白のままにします。

ウィザードの [Advanced Appliance Settings] ページが開きます。

e) アプライアンスの構成値を入力し、[Next] をクリックします。

NTP サーバー設定	
[NTP Server] フィールド	少なくとも 1 つの NTP サーバーアドレスまたはホスト名を入力します。追加の NTP サーバーアドレスまたはホスト名を入力するには、[Add] (+) アイコンをクリックします。 実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定するようお勧めします。

[Turn on NTP Authentication] チェックボックス	Catalyst Center Global Manager と同期する前に NTP サーバーの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。 • NTP サーバーのキー ID。有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 ($2^{32}-1$) です。 この値は、NTP サーバーのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 • NTP サーバーのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバーのキーファイルにあります。 (注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバーのキー ID とキー値を入力してください。
サブネット設定	
[Container Subnet] フィールド	内部サービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.32.0/20 に設定されているため、別のサブネットは入力できません。
[Cluster Subnet] フィールド	内部クラスタサービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.48.0/20 に設定されているため、別のサブネットは入力できません。

[Enter CLI Password] ページが開きます。

- f) `maglev` ユーザーのパスワードを入力して確認した後、[Next] をクリックします。

(注)

CLI パスワードポリシーに従い、新しいパスワードは過去 24 個のパスワードと異なる必要があります。

これは、トラブルシューティングのために CLI にアクセスするためのユーザー名とパスワードです。ログインすると、(セキュリティ対策として) 新しい管理者ユーザーを設定するように求められます。

入力した情報がウィザードで検証され、ウィザードの操作を続行する前に変更の必要な設定があれば、通知されます。入力した設定が有効な場合、ウィザードの [Summary] ページが開きます。

(注)

アプライアンスの設定を JSON ファイルとしてダウンロードするには、対応するリンクをクリックします。

- g) 画面の下部までスクロールし、ウィザードの完了時に入力したすべての設定を確認します。必要に応じて、適切な [Edit] リンクをクリックして、更新を行うウィザード画面を開きます。
- h) Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスの設定を完了するには、[Start Configuration] をクリックします。

プロセス中も [Appliance Configuration in Progress] ページが継続的に更新され、現在実行しているタスクとその進行状況、発生したエラーが示されます。この情報のローカルコピーをテキストファイルとして保存するには、[Download] アイコンをクリックします。

ステップ 5 アプライアンスの設定が完了したら、[Appliance Configuration Complete!] ページが開きます。アプライアンスの設定が完了したら、コピーアイコンをクリックして、デフォルトの管理者スーパーユーザーパスワードをコピーします。

重要

インストール構成ウィザードを完了すると、Catalyst Center Global Manager はこのパスワードを自動的に設定します。続行する前に、必ずコピーアイコンをクリックしてください。クリックしないと、Catalyst Center Global Manager への最初のログインができません。

(注)

セキュリティ対策として、ログイン後に新しいユーザー名とパスワードをセットアップように求められます。デフォルトの管理者アカウントは削除されます。

Web インストール構成ウィザードを使用した仮想アプライアンスの設定

ブラウザベースの詳細インストール構成ウィザードを使用して仮想アプライアンスを設定し、事前設定されたアプライアンス設定とは異なる設定を指定する必要がある場合は、次の手順を実行します。



重要

この手順の実行中に入力するすべての IP アドレスが有効な IPv4 ネットマスクを持つ有効な IPv4 アドレスであることを確認してください。また、アドレスと対応するサブネットが重複していないことを確認してください。重複している場合、サービスの通信の問題が発生する可能性があります。

手順

ステップ 1 展開が完了したら、新しく作成した仮想マシンの電源をオンにします。

- a) vSphere Web Client で、仮想マシンを右クリックします。
- b) [Power] > [Power On] を選択します。

仮想マシンが動作可能になるまでに約 90～120 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。vSphere Client の [Recent Tasks] タブで進捗状況をモニターできます。

ステップ 2 適切なリンクをクリックして、リモートコンソールまたは Web コンソールを起動します。

ステップ 3 詳細インストール構成ウィザードを表示します。

a) [STATIC IP CONFIGURATION] ページで、次のいずれかを実行します。

- [skip>>] を選択します。
- 独自の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを仮想アプライアンスのエンタープライズインターフェイスに割り当てる場合は、次の表に記載されている情報を入力し、[configure>>] を選択します。

IPv4 展開の場合は、このチェックボックスをオフにする必要があります。

[IPv6 Mode] チェックボックス	IPv4 アドレッシングを使用するには、このチェックボックスをオフのままにします。
[IP Address] フィールド	使用する静的 IP アドレスを入力します。
[ネットマスク (Netmask)] フィールド	前のフィールドに指定した IP アドレスのネットマスクを入力します。ネットマスクまたは CIDR アドレスのいずれかを入力できます。
[Default Gateway Address] フィールド	トラフィックのルーティングに使用されるデフォルトゲートウェイを指定します。
[Static Routes] フィールド	このウィザードを使用する場合はスタティックルート指定できないため、このフィールドは空白のままにします。

[Web インストール (Web Installation)] フィールドにリストされている URL に注意してください。これは次の手順で必要になります。

- b) [Static IP Configuration] ページに表示された URL を開きます。
- c) [Start a Cisco Catalyst Center Global Manager] ラジオボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- d) [Advanced Install] オプションボタンをクリックし、[Start] をクリックします。

[Advanced Install Overview] ウィンドウが開きます。[>] をクリックして、ウィザードで実行するタスクの概要を表示します。

e) [Start Workflow] をクリックしてウィザードを起動します。

[Virtual Appliance Interface Overview] ページが開き、設定可能な 4 つのアプライアンス インターフェイスの説明が表示されます。

ステップ 4 詳細インストール構成ウィザードを完了することにより、仮想アプライアンスを設定します。

a) [Next] をクリックします。

[How would you like to set up your virtual appliance interfaces] ページが開きます。

ネットワークがファイアウォールの背後にある場合は、次の手順を実行します。

- [allow access to these URLs] リンクをクリックすると、Catalyst Center Global Manager がアクセスできる必要がある URL を一覧表示するポップアップウィンドウが表示されます。
- [open these ports] リンクをクリックすると、Catalyst Center Global Manager が使用できる必要があるネットワークサービスポートを一覧表示するポップアップウィンドウが表示されます。

デフォルトでは、[Enterprise Network Interface] チェックボックスがすでにオンになっています。また、[STATIC IP CONFIGURATION] ページで入力した値も事前に入力されています。

b) 使用するアプライアンス インターフェイスごとに次の手順を実行し、[Next] をクリックします。

- 対応するチェックボックスをオンにして、適切な設定値を入力します。
- 必要に応じて、対応する [Add/Edit Static Route] リンクをクリックし、スタティックルートを設定します。必要に応じて [+] をクリックし、追加のルートを設定します。完了したら、[Add] をクリックします。

[DNS Configuration] 画面が開きます。

c) 優先 DNS サーバーの IP アドレスを入力して、[Next] をクリックします。追加の DNS サーバーを入力するには、[Add] (+) アイコンをクリックします。

重要

- クラスタ内の各ノードに対して、最大 3 つの DNS サーバーを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。
- NTP の場合、Catalyst Center Global Manager と NTP サーバの間のポート 123 (UDP) が開いていることを確認します。

[Configure Proxy Server Information] 画面が開きます。

d) 次のいずれかを実行し、[Next] をクリックします。

- ネットワークでプロキシサーバーを使用しないでインターネットにアクセスする場合は、[No] オプションボタンをクリックします。
- ネットワークでプロキシサーバーを使用してインターネットにアクセスする場合は、次の表に示す値を入力します。

[プロキシサーバ (Proxy Server)] フィールド	インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。 (注) Catalyst Center Global Manager から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。
[Port] フィールド	アプライアンスがネットワークプロキシにアクセスするために使用したポートを入力します。

[Username] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザ名を入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。
Password フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。

入力した情報がウィザードで検証され、変更の必要な設定があれば、ウィザードの操作を続行する前に通知されます。入力した設定が有効で、ポートが稼働している場合は、ウィザードの [Advanced Appliance Settings] 画面が開きます。

- e) アプライアンスの構成値を入力し、[Next] をクリックします。

NTP サーバー設定	
[NTP Server] フィールド	少なくとも 1 つの NTP サーバーアドレスまたはホスト名を入力します。追加の NTP サーバーアドレスまたはホスト名を入力するには、[Add] (+) アイコンをクリックします。 実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定するようお勧めします。
[Turn On NTP Authentication] チェックボックス	Catalyst Center Global Manager と同期する前に NTP サーバーの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。 • NTP サーバーのキー ID。有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 (2³²-1) です。 この値は、NTP サーバーのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 • NTP サーバーのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバーのキーファイルにあります。 (注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバーのキー ID とキー値を入力してください。
サブネット設定	
[Container Subnet] フィールド	内部サービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.32.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。

[Cluster Subnet] フィールド	内部クラスタサービスを管理するために Catalyst Center Global Manager で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.48.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。
------------------------	---

[Enter CLI Password] ページが開きます。

- f) maglev ユーザーのパスワードを入力して確認した後、[Next] をクリックします。

(注)

CLI パスワードポリシーに従い、新しいパスワードは過去 24 個のパスワードと異なる必要があります。

入力した情報がウィザードで検証され、変更の必要な設定があれば、ウィザードの操作を続行する前に通知されます。入力した設定が有効な場合、ウィザードの [Summary] ページが開きます。

(注)

アプライアンスの設定を JSON ファイルとしてダウンロードするには、対応するリンクをクリックします。

- g) 画面の下部までスクロールし、ウィザードの完了時に入力したすべての設定を確認します。必要に応じて、適切な [Edit] リンクをクリックして、更新を行うウィザード画面を開きます。
- h) Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスの設定を完了するには、[Start Configuration] をクリックします。

プロセス中も [Appliance Configuration in Progress] ページが継続的に更新され、現在実行しているタスクとその進行状況、発生したエラーが示されます。この情報のローカルコピーをテキストファイルとして保存するには、[Download] アイコンをクリックします。

仮想マシンが動作可能になるまでに約 180 ～ 210 分かかります。実際の時間は、使用可能な帯域幅、RAM、ハードディスク容量、vCPU の数などによって異なります。vSphere Client の [Recent Tasks] タブで進捗状況をモニターできます。

ステップ 5 アプライアンスの設定が完了したら、[Appliance Configuration Complete!] ページが開きます。アプライアンスの設定が完了したら、コピーアイコンをクリックして、デフォルトの管理者スーパーユーザーパスワードをコピーします。

サービスが安定して、GUI にログイン可能になるまでには 15 ～ 30 分かかります。

重要

インストール構成ウィザードを完了すると、Catalyst Center Global Manager はこのパスワードを自動的に設定します。続行する前に、必ずコピーアイコンをクリックしてください。クリックしないと、Catalyst Center Global Manager への最初のログインができません。



第 5 章

はじめに

- [Catalyst Center Global Manager](#) にログインして実行する (35 ページ)
- [Catalyst Center](#) を [CRS](#) に始めて登録する (38 ページ)
- [サイト階層](#) (39 ページ)
- [概要ダッシュボードからのモニタリング](#) (42 ページ)
- [アラート](#) (45 ページ)
- [デバイスインフラストラクチャ](#) (45 ページ)
- [エンドポイント](#) (47 ページ)
- [状況対応ダッシュボード \(ベータ版\)](#) (48 ページ)
- [コントローラ](#) (50 ページ)
- [グローバル検索](#) (56 ページ)
- [Workflows](#) (57 ページ)
- [開発者用ツールキット](#) (57 ページ)
- [アクティビティ](#) (58 ページ)
- [システム](#) (59 ページ)

Catalyst Center Global Manager にログインして実行する

Catalyst Center Global Manager 仮想アプライアンスを展開して設定したら、GUI にログインできます。Catalyst Center Global Manager にアクセスするには、互換性のある HTTPS 対応ブラウザを使用してください。

始める前に

初回セットアップでは、Cisco Commerce Workspace (CCW) を介してライセンスを取得するための注文を作成し、発注する必要があります。ライセンスを取得すると、Cloud登録サービス (CSR) ダッシュボードにプロファイルが自動的に作成されます。次に、同じバーチャルアカウントを使用して、初回セットアップワークフローの一環としてライセンスを取得できます。



(注) Cisco Commerce Workspace (CCW) での発注から、Catalyst Center Global Managerでの Day 0 (初回セットアップ (FTS)) までの間に、約 3 日間の待機期間が必要です。

手順

ステップ 1 HTTPS:// と、設定プロセスの最後に表示された Catalyst Center Global Manager GUI の IP アドレスを併用して、Catalyst Center Global Manager GUI にアクセスします。

Catalyst Center Global Manager ログインページが表示されます。

(注)

GUI にアクセスするときは、ブラウザのプライベート/シークレットウィンドウを使用することをお勧めします。サポート対象のブラウザを使用していることを確認します。「サポートされているブラウザ」と「画面の解像度」の詳細については、「[展開要件](#)」のセクションを参照してください。

ステップ 2 ログイン情報を使用して Catalyst Center Global Manager にログインします。新しい管理者ユーザーに関して設定した、デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。

- [User Name] フィールドに admin と入力します。
- [Password] フィールドに、P@ssword9 と入力します。

(注)

これらは、GUI に初めてアクセスするためのデフォルトのログイン情報であり、手順 3 で新しいユーザーアカウントが作成されると削除されます。

ステップ 3 パスワードが認証された後、Catalyst Center Global Manager の新しいユーザーアカウントを作成します。

- Catalyst Center Global Manager からはログアウトされます。作成された新しいユーザーアカウントを使用して再度ログインする必要があります。
- Catalyst Center Global Manager によって管理される各コントローラには、同一のユーザーアカウントを作成する必要があります。

ステップ 4 [Log In] をクリックします。

Catalyst Center Global Manager の [First Time Setup] ウィンドウが表示されます。

ここでは、Catalyst Center Global Manager の購入に使用したスマートアカウントまたはバーチャルアカウントに関連付けられている電子メールアドレスを入力する必要があります。

ステップ 5 [Continue] をクリックします。

[Terms & Conditions] ウィンドウが開き、「シスコ一般規約」（旧称「エンドユーザー ライセンス契約 (EULA)」）および現在利用可能な補足条件へのリンクが表示されます。

ステップ 6 [Next] をクリックして利用規約に同意します。

[Activate your device] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [Next] をクリックして、Catalyst Center Global Manager を Cisco Catalyst Cloud に対して有効にします。

[Cisco Catalyst Cloud] ウィンドウが表示され、ポップアップ画面とコードが表示されます。

(注)

ブラウザでページのポップアップ画面を有効にしていることを確認してください。

正常にログインすると、Catalyst Center Global Manager と Cisco Catalyst Cloud との間の登録ステータスが画面に表示されます。

(注)

ログインに失敗すると、認証の問題により Cisco Catalyst Cloud への登録を完了できないことを示すエラーメッセージが表示されます。この場合、数分後に再度サインインするか、ブラウザのポップアップ設定を確認してください。

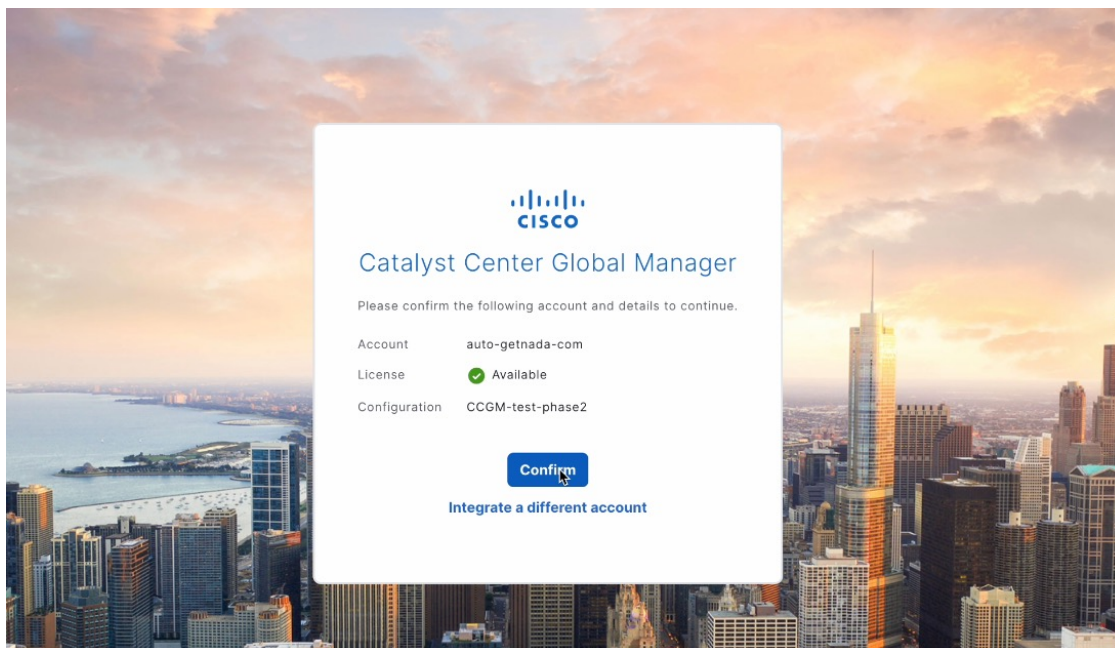
ステップ 8 バーチャルアカウント管理者の電子メールとパスワードを入力して、Catalyst Center Global Manager を Cisco Catalyst Cloud に登録します。バーチャルアカウント管理者の電子メールを使用して Catalyst Center Global Manager を CRS プロファイルに正常に登録したら、デバイスがアクティブ化され、登録されたことを確認します。

(注)

Catalyst Center Global Manager でプロフィールが正常に要求されたら、CRS プロファイル設定の詳細を確認します。

ステップ 9 [Confirm] をクリックして、Catalyst Center Global Manager GUI ダッシュボードを初めて開きます。

図 1: 初回ログイン設定



Catalyst Center Global Manager 内の [Overview] ページにリダイレクトされ、Catalyst Center コントローラを登録する手順が示されます。

(注)

コントローラが登録されていないため、いくつかのメニューオプションのみがメニューに表示されます。

Catalyst Center Global Manager には別の管理者ユーザーを含めることができます。ただし唯一の要件として、ユーザーの電子メール ID が、CRS プロファイルに関連付けられているのと同じ VA に接続されている必要があります。

Catalyst Center を CRS に始めて登録する

Catalyst Center を Catalyst Center Global Manager に登録するには、Catalyst Center を CRS ダッシュボードと統合する必要があります。Catalyst Center にログインして、このプロセスを開始します。



(注) Catalyst Center のサポート対象の最小バージョンは 2.3.7.9 です。

手順

ステップ 1 メニュー (☰) アイコンから、[System] > [Settings] を選択します。

[Settings] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Global Manager Integration] を検索し、[Enroll] をクリックします。

[Activate your device] ウィンドウが表示されます。ここに **アクティベーションコード** が表示されます。

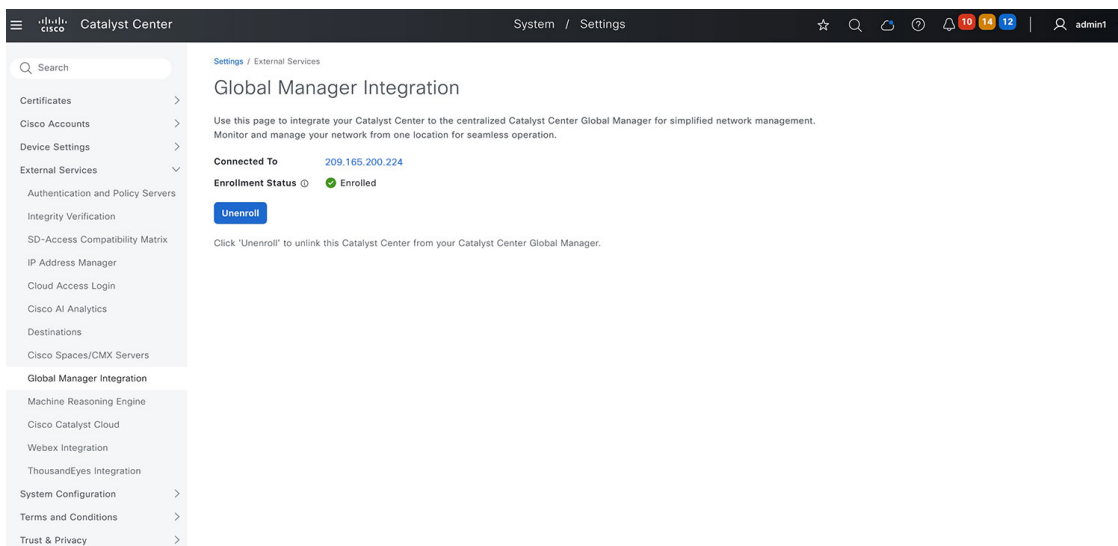
ステップ 3 [Next] をクリックして、CRS ダッシュボードに対して Catalyst Center をアクティブにします。ここで、シスコバーチャルアカウントに関連付けられている電子メールとパスワードを入力します。

Catalyst Center がバーチャルアカウント管理者の電子メールを使用して CRS プロファイルに登録された後、[Device activated] ウィンドウが表示されます。

Catalyst Center は CRS ダッシュボードに接続し、Catalyst Center Global Manager の IP アドレスを含む、以前に設定したプロファイルを見つけます。次に、認証の詳細を Catalyst Center Global Manager に送信して、Catalyst Center Global Manager との接続を確立します。

[Enroll] をクリックすると、Catalyst Center は、以前に [Profile] で設定した IP アドレスで Catalyst Center Global Manager との接続を確立します。

Catalyst Center を Catalyst Center Global Manager からリンクを解除する場合は、[Unenroll] をクリックします。



次のタスク

Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動すると、新たに登録したコントローラの Toast（通告）が表示されます。[Refresh] リンクをクリックすると、ページを更新してコントローラからデータを表示できます。

さらに、メニューオプションが更新されるほか、[Controllers] ページに移動して、Catalyst Center Global Manager に追加された新しい Catalyst Center を表示することもできます。



(注) 設定した CCO アカウントは、[System] > [External Services] > [Cisco Catalyst Cloud] ページの [Enroll] で表示できます。

サイト階層

Catalyst Center Global Manager の [Site Hierarchy] セレクタは、さまざまなコントローラにまたがるすべてのサイトの集約ビューを提供します。複数のコントローラが同じサイト

(Global/USA/East Coast など) を共有する場合、それらのサイトは結合され、サイトセレクタで単一のノードとして表示されます。ページに表示されるコンテンツは、選択したサイトに基づいてフィルタ処理されます。フィルタリングなしのビューも使用できます。

[Site Hierarchy] セレクタには、各レベルの最初の 100 ノードがリストされます。文字列を入力し、[Enter] または [Search] ボタンをクリックすると、特定のサイトを検索できます。

サイト階層の更新

サイト階層の更新をトリガーする方法は3つあります。

1. いずれかのコントローラのサイトに更新がある場合は、サイトセクタの[Refresh]ボタンを手動でクリックして、すべてのコントローラからデータをリロードする必要があります。
2. コントローラの更新や到達可能性の変更（たとえば、コントローラが到達可能または到達不能になるなど）などがある場合、サイトセクタで[Refresh]ボタンを手動で選択する必要があります。



- (注) サイトを選択すると、[Overview]ダッシュボードにネットワークの正常性とアラートのデータが反映されます。同時に、他の第2レベルのページのデータも反映されます。

ネットワークの正常性とアラートは各サイトに固有ですが、コントローラの正常性はサイト固有ではありません。

3. サイトデータの入力中にエラーが発生した場合、[Refresh]ボタンの横にある下部のバーにエラー数が表示されます。

サイトセクタはすべての変更に対して自動的に更新されません。次のような特定のイベントに対してのみ、コントローラのサイトを自動的に更新します。

- Toast（通告）の更新を伴うコントローラ登録。
- Toast（通告）の更新を伴う登録解除。

これらのイベントでは、[Refresh]ボタンを手動でクリックする必要はありません。対照的に、Catalyst Center Global Manager サイトセクタでは、サイトの追加、削除、変更など、コントローラ側のサイトに変更がある場合にオンデマンドの更新が必要です。

サイトの名前を変更

すべての関連コントローラの[Site management]から、[Site Hierarchy]内のサイト名を変更できます。これらの変更は、Catalyst Center で実行できます。



- (注) 変更できるのは、ビルディングとエリアの名前のみです。グローバルサイトとフロアの名前を変更することはできません。

サイト階層に含まれている限り、ファブリックサイトか非ファブリックサイトかを問わず、サイトを編集できます。Catalyst Center Global Manager のファブリックゾーン機能はサポートされていません。つまり、Catalyst Center Global Manager はファブリックゾーンを設定する機能を提供しません。

手順

ステップ 1 Catalyst Center Global Manager ダッシュボードから、[Site Hierarchy Global] > [Site management] に移動してサイトの名前を変更します。

[Site Hierarchy Management] ウィンドウが表示されます。

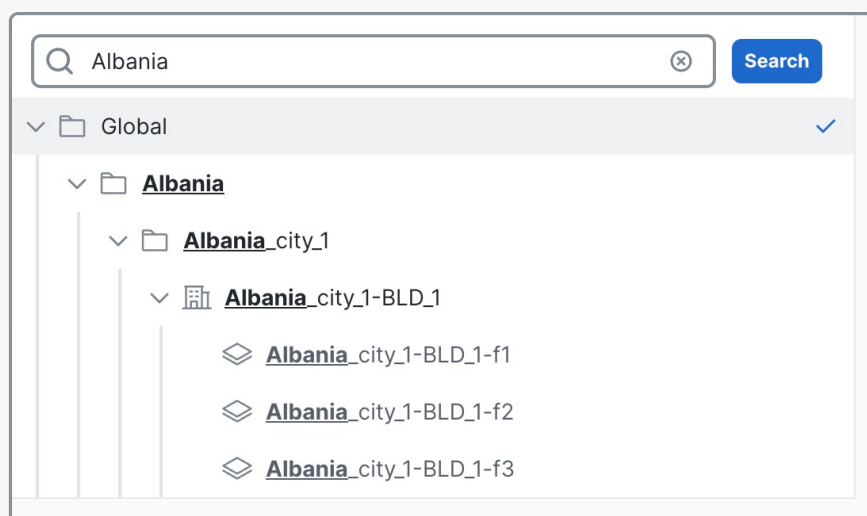
ステップ 2 名前を変更するサイトを見つけて、[Site Hierarchy Management] ページで [Search] をクリックします。

ステップ 3 名前を変更するサイトをクリックします。

ポップアップウィンドウが表示され、このサイトの影響を受けるコントローラを示します。

Current global site hierarchy

Select a site to edit. Currently, the edit function supports rename area and building but not floor.



ステップ 4 [Edit] ページで、必要に応じてサイト名またはその他の関連詳細を更新します。

ステップ 5 [Save] ボタンをクリックして変更を適用します。

サイトの名前が正常に変更され、変更されたサイト名がサイトセクタに反映されます。

(注)

サイトセクタでは、変更したサイト名がすぐに表示されます。ただし、[Alerts]、[Endpoints]、[Health]、[Software-Defined Access] などの他のセカンドレベルのページでは、新しいサイト名が反映されるまでに約 15 ～ 30 分かかります。

エラーが発生した場合は、操作の最終ステータスに表示されます。

概要ダッシュボードからのモニタリング

Catalyst Center Global Manager [Overview] ページには、コントローラの状態と、個々のコントローラに関する追加の詳細情報が表示されます。

コントローラを追加した後に Catalyst Center Global Manager にログインすると、Catalyst Center Global Manager は、[Overview] ページで徐々にデータのレンダリングを開始します。Catalyst Center Global Manager が登録済みのコントローラからデータを受信したときにデータが増分的にロードされると、[Overview] ページに進捗バーが表示されます。このプロセスは、プログレッシブロードと呼ばれます。

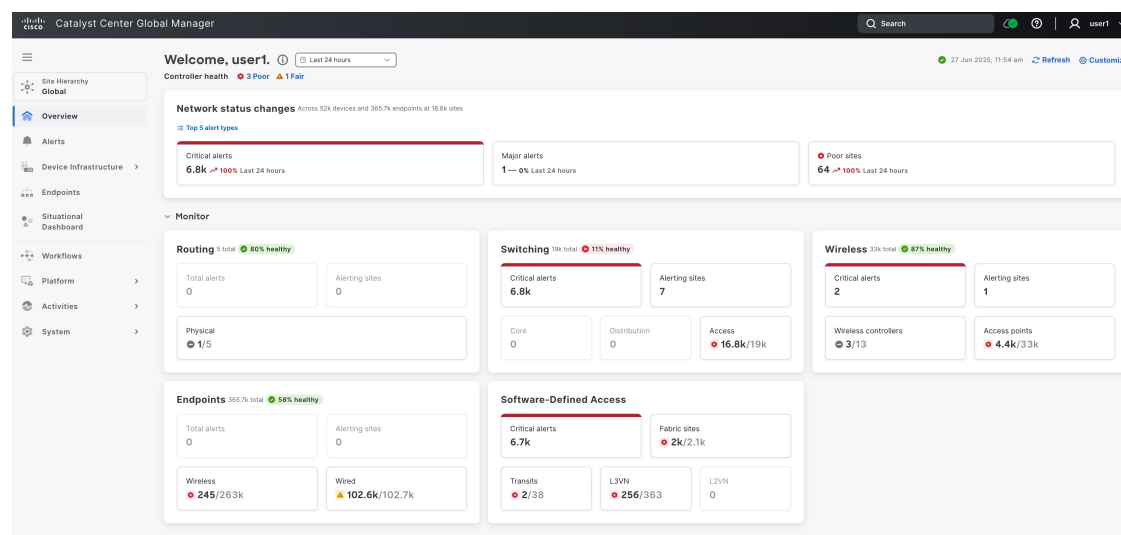


(注) ページの合計ロード時間は、各コントローラの応答時間によって異なる場合があります。

登録済みのすべてのコントローラがデータで応答した後、進捗バーが緑色に変わります。進捗バーは、データロードが完了してから 15 秒以内に消えます。



(注) 登録済みコントローラから取得しているデータにエラーがあった場合、エラーアラートを含む進捗バーがページに表示されます。カーソルを合わせると、応答したコントローラの数を確認できます。日付と時刻の近くにあるロードステータスアイコンをクリックすると、個々の障害に関する詳細をさらにドリルダウンして、[Overview] ページの各ダッシュレットに特定の障害の詳細を表示できます。





(注) [Refresh] をクリックして表示されている情報を更新し、ネットワークデバイスとコンポーネントのステータスを最新にします。これにより、デバイスの正常性、パフォーマンス、および進行中の問題に関する最新のデータが得られます。

[Customize] をクリックすると、[Overview] ページのさまざまなセクション内でダッシュレットを再配置できます。

コントローラの状態を監視する

個々の Catalyst Center について、Catalyst Center Global Manager からコントローラの正常性ステータスを表示するためのサポートを利用できます。

Catalyst Center Global Manager の [Overview] ページで、コントローラの正常性ステータスをクリックします。この操作により、Catalyst Center Global Manager 内の [Controllers] ページにリダイレクトされ、選択内容に基づいてフィルタ処理されたデータが表示されます。

手順

ステップ 1 Catalyst Center Global Manager ダッシュボードから、[Overview] ページに移動し、コントローラの正常性ステータスをクリックして、表示されている台数についてコントローラの正常性を確認するか、[System] > [Controllers] に移動して正常性を確認します。

ステップ 2 コントローラの名前の 1 つをクリックして詳細を表示し、それぞれのコントローラの [System health] を相互起動して正常性の詳細を表示してトラブルシューティングを行います。

この後、Catalyst Center の追加のトラブルシューティング手順に進むことができます。

コントローラの詳細については、「[コントローラ](#)」を参照してください。

ネットワークステータスの変化を監視する

[Network status changes] では、すべての Catalyst Center によって管理される複数のサイトのすべてのデバイスとエンドポイントにまたがって、ネットワークの概要が表示されます。この情報により、対処が必要になりかねない潜在的な問題を特定できます。

手順

Catalyst Center Global Manager ダッシュボードから [Overview] ページに移動して、[Network status changes] セクションを表示します。

[Network status changes] で次のダッシュレットを把握できます。

- クリティカル アラート
 - 重要なアラート
 - 貧弱なサイト
-

デバイスの正常性の監視

次の概要とデバイスの正常性を監視します。

- [Routing] では、次の情報を確認できます。
 - マイナーアラート
 - アラートサイト
 - 物理
- [Switching] では、次の情報を確認できます。
 - マイナーアラート
 - アラートサイト
 - コア
 - ディストリビューション
 - アクセス
- [Wireless] では、次の情報を確認できます。
 - マイナーアラート
 - アラートサイト
 - ワイヤレスコントローラ
 - アクセスポイント
- [Endpoints] では、次の情報を確認できます。
 - マイナーアラート
 - アラートサイト
 - ワイヤレス
 - 有線
- [Software-Defined Access summaries] では、次の情報を確認できます。

- アラートの総数
- ファブリックサイト
- トランジット
- L2 VN
- L3 VN

各サブカードカウントをクリックすると、対応する第 2 レベルのページ ([Alerts]、[Health]、[Software-Defined Access]、[Endpoints]など) が開きます。

アラート

Catalyst Center Global Manager の **アラート** 機能を使用すると、注意が必要なアラートの詳細を表示および調査できます。これには、さまざまなアラートタイプと分析に関する情報が含まれており、個々のアラートの上位サイトグループとセグメントタイプが強調表示されます。

アラートを確認するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Alerts] をクリックします。次に、登録済みのコントローラからデータを受信しながら、このページに徐々にデータがロードされます。

アラートは、次の 4 つのレベルに分類されます。

- 重大
- やや重大
- 比較的重大でない
- 情報

特定のアラートの詳細を表示するには、[Alert types] のアラートタイプ名をクリックして、相互起動するか、またはそれぞれのコントローラに移動します。

[Alerts] ページには、次の情報も表示されます。

- [Analytics] : 上位のサイトグループと上位のセグメントタイプの分析。
- [Alert types] : 優先順位、セグメントタイプ、およびカテゴリでフィルタ処理されたすべてのアラートのテーブル。

デバイスインフラストラクチャ

Catalyst Center Global Manager の [Device Infrastructure] は、各デバイスの正常性およびファブリックサイトについてフィルタ処理された詳細を提供し、すべてのデバイスとファブリックサイトが最適かつ安全に機能していることを保証します。

デバイスヘルス

各デバイスの正常性ステータスを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Device Infrastructure] > [Health] をクリックします。次に、登録済みのコントローラからデータを受信しながら、このページに徐々にデータがロードされます。

正常性ステータスのカテゴリは次のとおりです。

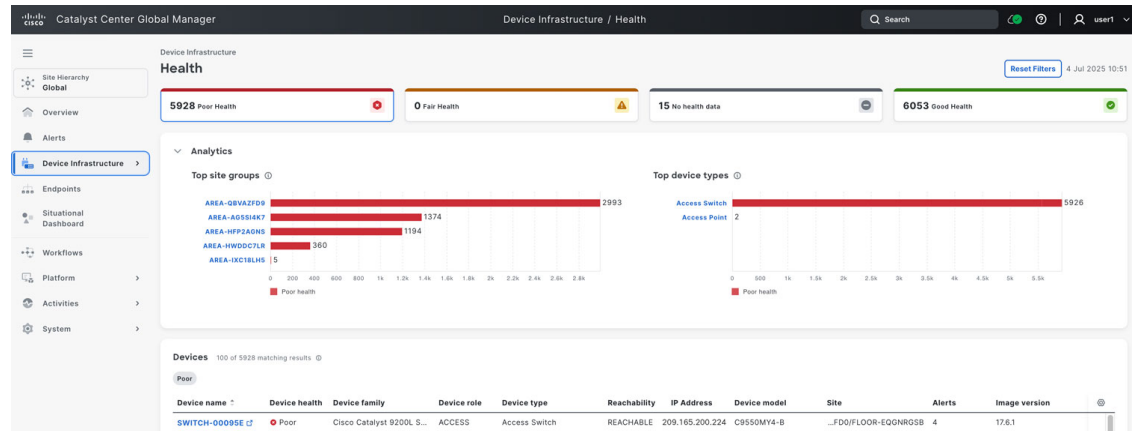
- [Poor Health] : 正常性スコアが 1 ～ 3 のデバイス。
- [Fair Health] : 正常性スコアが 4 ～ 7 のデバイス。
- [No Health] : 正常性データのないデバイス。
- [Good Health] : 正常性スコアが 8 ～ 10 のデバイス。

特定のデバイスに関する詳細を表示するには、[Devices] でデバイス名をクリックするか、それぞれのコントローラの [Device 360] ページに移動します。

[Health] ページには、次の情報も表示されます。

- [Summary] : 各正常性カテゴリに基づいたネットワーク正常性の概要。
- [Analytics] : 上位のサイトグループと上位のデバイスタイプの分析。

図に示すように、テーブルにリストされているデバイスに基づいて、フィルタを選択または選択解除することで、サイトグループおよびデバイスタイプを操作できます。



例：[Top site groups] チャートからサイトグループを選択すると、[Top device types] チャートでは、選択したサイトグループに関連付けられているデバイスタイプが強調表示されます。逆に、[Top device types] チャートからデバイスタイプを選択すると、それらのデバイスタイプを含む [Top site groups] チャートでサイトグループが強調表示されます。

[Top site groups] と [Top device types] 分析セクションの両方から同時にフィルタを選択できます。下の [Devices] テーブルには、選択した条件の組み合わせによってフィルタ処理されたデバイスが表示され、アクティブなフィルタが視覚的に強調表示されます。分析チャートからサイトグループまたはデバイスタイプの選択を解除すると、対応するフィルタがクリアされ、それに応じて [Devices] テーブルが更新されます。

- [Devices] : 選択内容に基づいて、すべてのデバイスとデバイス名、デバイスの状態、デバイスファミリの表が表示されます。
- デバイス表には、100 個のエントリのみが表示されます。

ソフトウェア定義型アクセス

ファブリックサイト、トランジット、レイヤ 3 仮想ネットワーク (L3 VN)、およびレイヤ 2 仮想ネットワーク (L2 VN) のそれぞれについて、ソフトウェア定義型アクセスの正常性ステータスを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Device Infrastructure] > [Software-Defined Access] をクリックします。次に、登録済みのコントローラからデータを受信しながら、このページに徐々にデータがロードされます。

正常性ステータスのカテゴリは次のとおりです。

- [Poor Health] : 正常性スコアが 1 ～ 3 のデバイス。
- [Fair Health] : 正常性スコアが 4 ～ 7 のデバイス。
- [No Health] : 正常性データのないデバイス。
- [Good Health] : 正常性スコアが 8 ～ 10 のデバイス。

[Software-Defined Access] ページには、次の情報も表示されます。

- [Fabric site health] : ファブリックサイトの表が表示されます。
- [Transit health] : トランジットの表が表示されます。
- [Layer 3 virtual network health] : L3 VN のテーブル。
- [Layer 2 virtual network health] : L2 VN の表が表示されます。

エンドポイント

エンドポイントを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Endpoints] をクリックします。次に、登録済みのコントローラからデータを受信しながら、このページに徐々にデータがロードされます。

エンドポイントは、Catalyst Center Global Manager の第 2 レベルのページでも使用できるようになりました。[Overview] ダッシュボードのエンドポイントダッシュレットとは別に使用できません。

ワイヤレスエンドポイントと有線エンドポイントの両方について、正常性の詳細が表示されます。ワイヤレスエンドポイントと有線エンドポイントの両方が、上位のサイトグループおよび上位のメトリックの情報に反映されます。[Endpoints] ページは、Catalyst Center Global Manager の他のセカンドレベルのページと同様に、追加の正常性カテゴリも提供します。

特定のエンドポイントに関する詳細情報を表示するには、ワイヤレスエンドポイントまたは有線エンドポイントの [Endpoints] ページの [Endpoint] でエンドポイント名をクリックして、各コントローラページを相互起動するか、または各コントローラページに移動します。

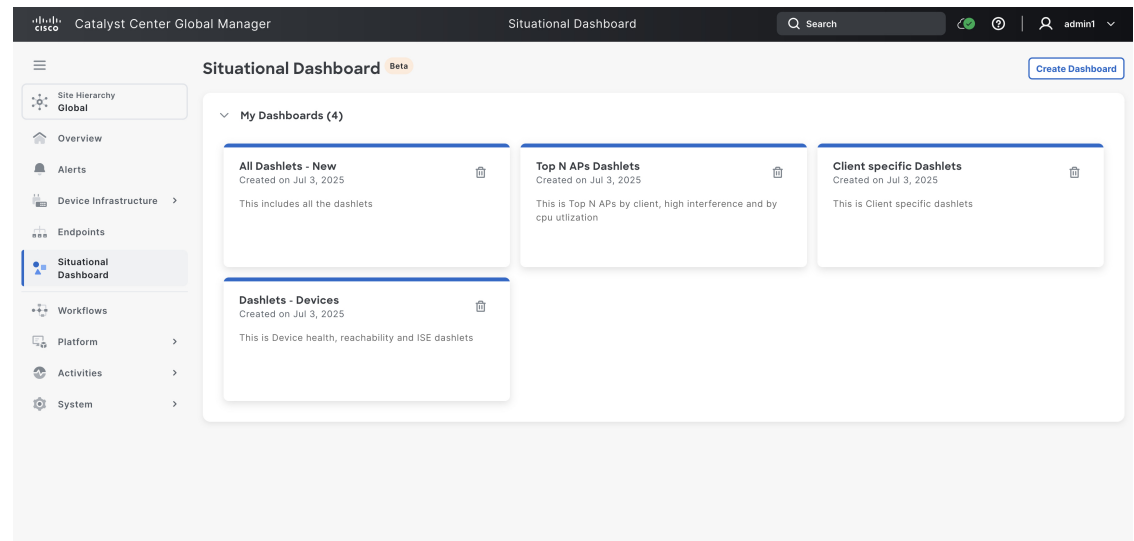
[Connected AP] の詳細を表示するには、[Endpoints] ページのワイヤレス/有線エンドポイントでアクセスポイント（AP）名をクリックして、特定の AP ページのそれぞれのコントローラの [Device 360] ページを相互起動するか、または各ページに移動します。

[Connected AP] に関する詳細情報を表示するには、ワイヤレスエンドポイントの [Endpoints] ページでアクセスポイント（AP）名をクリックして、特定 AP ページの各コントローラの [Device 360] ページを相互起動します。同様に、[Connected Switch] に関する詳細情報を表示するには、有線エンドポイントの [Endpoints] ページで接続済みスイッチの名前をクリックして、特定コントローラスイッチページの各コントローラの [Device 360] ページを相互起動します。

状況対応ダッシュボード（ベータ版）

状況対応ダッシュボードを使用すると、Catalyst Center Global Manager で利用可能な事前作成済みのダッシュレットを使用して、要件に応じたカスタムページを設計できます。ダッシュボードは、クライアントとデバイスの正常性、接続、および評価指標の集約ビューを提供します。

状況対応ダッシュボードを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Situational Dashboard] をクリックします。次に、登録済みのコントローラからデータを受信しながら、このページに徐々にデータがロードされます。



ダッシュボードの作成

手順

ステップ 1 Catalyst Center Global Manager ダッシュボードから、[Situational Dashboard] > [Create Dashboard] の順に選択し、12 個の事前定義されたダッシュレットを使用して、カスタマイズされたページを作成します。

ステップ 2 [Dashboard Title] と [Description] を入力して、ダッシュボードで有効にするビューをこれらのダッシュレットから選択します。

- クライアントのオンボーディング時間
- クライアントのローミング時間
- クライアント接続の受信信号強度表示 (RSSI)
- クライアント接続の信号対雑音比 (SNR)
- サービスセット識別子 (SSID) ごとのクライアント数
- クライアントとの物理リンク接続
- クライアント数ごとの上位アクセスポイント (AP)
- 高干渉で上位の AP
- CPU 使用率で上位の AP
- デバイスの正常性カウント
- ネットワーク到達可能性
- Identity Services Engine (ISE)

ステップ 3 [Save] をクリックします。

カスタマイズされたページが、[My Dashboards]で作成したダッシュボードの 1 つとして表示されます。

ステップ 4 作成したページをクリックして、複数のコントローラからデータを集約したビューを表示します。

(注)

[Refresh] をクリックすると、表示されている情報が更新され、最新のステータスが表示されます。

[Customize] をクリックしてダッシュボードを編集します。

ダッシュボードタイトルの矢印アイコンでのドロップダウン選択を使用して、作成したダッシュボードを切り替えることができます。

コントローラ

Catalyst Center が Catalyst Center Global Manager に登録されると、[Controllers] ページですべての Catalyst Center を表示できます。

[Controllers] ページに移動するには、次の 2 つの方法があります。

- [Overview] ページで、コントローラの正常性ステータスをクリックします。
- または、[System] > [Controllers] ページから移動できます。

その後、コントローラ名を選択して詳細を確認します。



(注) コントローラの正常性ステータスが表示されるまでに最大 10 分かかる場合があります。

[Controllers] ページには、次の詳細情報が表示されます。

Catalyst Center Global Manager

System / Controllers

Q Search

user1

Site Hierarchy

Global

Overview

Alerts

Device Infrastructure

Endpoints

Situational Dashboard

Workflows

Platform

Activities

System

Controllers

Q Search

Health

Connectivity

Total 4 controllers

As of 2:08 pm [Refresh](#)

Controller	IP address	Health	Connectivity	System version	Cluster configuration	Type
Controller 1	209.165.200.224	Fair	Reachable	3.13-75664	single-node	Catalyst Center
Controller 2	209.165.200.225	Poor	Reachable	3.13-75664	single-node	Catalyst Center
Controller 3	209.165.200.226	Poor	Reachable	3.13-75657	3-node	Catalyst Center
Controller 4	209.165.200.227	Poor	Reachable	2.3.7.9-75335	single-node	Catalyst Center



- (注)
- [Controllers] : Catalyst Center コントローラの名前。
 - コントローラが最新バージョンにアップグレードされると、[Controller] ページの [System version] 列に、新しく更新されたバージョンが自動的に表示されます。

コントローラの詳細を表示するには、いずれかのコントローラをクリックします。[Controller Details] ウィンドウが表示され、ここでリンクのいずれかをクリックすると、コントローラページを相互起動して詳細情報を確認できます。

[Controller Details] ウィンドウに含まれる情報は、以下のとおりです。

- [Controller name] : IP アドレスとして表示されるコントローラの名前。
- デフォルトでは、Catalyst Center コントローラで設定されているホスト名、または VIP アドレスまたは管理/エンタープライズ インターフェイス IP アドレスを使用して、登録時にコントローラの名前が入力されます。ただし、コントローラページの [Edit] 機能を使用して、名前をカスタマイズできるオプションがあります。



- (注)
- [Controller] 名のみ編集できます。編集した名前は Catalyst Center Global Manager 内の [Controllers] ページにのみ表示され、コントローラ自体には伝播しません。

- [View details] : [System 360] への相互起動リンク。
- [IP Address] : Catalyst Center Global Manager に追加されたすべてのコントローラの IP アドレス。
- [Connectivity] : コントローラが到達可能かどうか。
- [Health status] : すべてのコントローラの正常性。
- [Description] : すべてのコントローラのドメインシステム証明書、アラート、またはシステム正常性イベントの説明。
- [Type of controller] : コントローラが Catalyst Center かどうか。
- [Enterprise VIP] : コントローラの仮想 IP アドレス。
- [Cluster configuration] : コントローラが単一ノードか 3 ノードか。
- [System Version] : Catalyst Center で実行されているソフトウェアバージョン。
- [Cloud Member ID] : コントローラのクラウドメンバー ID。
- [Last collection] : コントローラの詳細情報を収集した日付。



(注)

-
- コントローラの名前のみを編集できます。

名前は、Catalyst Center Global Manager でのコントローラのラベル付け方法を決定しますが、コントローラ自体には反映されません。これは UI だけの設定であり、コントローラの構成には影響しません。さらに、この名前は、コントローラを相互起動するときに表示されません。

コントローラを編集する場合は、編集する [Controller] の名前をクリックします。[Controller Details] ウィンドウが表示されます。[Edit] をクリックしてコントローラの名前を変更し、保存します。

Controller Details

✕

View controller details, or cross launch to controller for further details.

Controller name 209.165.200.224

View details [System 360](#)

IP address ⓘ 209.165.200.224

Connectivity  Reachable

Health status  Fair
[System health](#)

Description  The following URLs are not reachable directly: ... ⓘ
 A newer Cisco trusted certificate bundle is avai... ⓘ

Type of controller Catalyst Center

Enterprise VIP 209.165.200.224

Cluster configuration single-node

Node hostname 209.165.200.224

Node health  Good

Enterprise IP 209.165.200.224

Node serial number FCH2202W015

System version 3.1.3-75664

[Software management](#)

Cloud member ID 681b1dec591d004dbb6164d3

Last collected on 27 Jun 2025, 2:10 pm

[Cancel](#)[Edit](#)

- テーブル設定を編集できます。

[Controllers] ページから、表示するものと非表示にするものを決定できます。この場合、テーブルヘッダーの歯車アイコンをクリックして、[Controllers] ページのテーブル設定を変更できます。[Table Settings] ウィンドウが表示されます。要件に基づいて [Table Density] と [Table Columns] の下の項目をオンまたはオフにして、[Apply] をクリックします。

コントローラへの相互起動

[Controllers] ページでは、選択したコントローラについて、次のタイプの相互起動が [Controller Details] に表示されます。これには、System 360、システム正常性、およびソフトウェア管理が含まれます。

相互起動は、Catalyst Center Global Manager 内のすべてのページから使用できます。Catalyst Center Global Manager に 1 回ログインするだけで、再度ログインすることなく、すべての登録済みコントローラにアクセスできます。

システム 360

[System 360] タブは、選択した Catalyst Center で実行されているアプリケーションスタックとサービスに関する詳細情報を提供します。この情報を使用して、特定のアプリケーションやサービスに関する問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

手順

ステップ 1 [Controllers] ページで、いずれかのコントローラをクリックします。

[Controller Details] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [System 360] をクリックして詳細を表示します。

選択したコントローラの特定のページを相互起動すると、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードから新しいウィンドウが開きます。

(注)

登録済みの Catalyst Center に対して相互起動が正しく機能するためには、Catalyst Center Global Manager によって管理されるすべてのコントローラについて、Catalyst Center Global Manager と同じユーザーが存在する必要があります。

システムヘルス

[System Health] には、[Controllers] ページで選択した、Catalyst Center の正常性に関する詳細情報が表示されます。

選択したコントローラの [Controller Details] ウィンドウで **[System Health]** をクリックすると、システムは対応する Catalyst Center ページを相互起動します。

ソフトウェア管理

[Software Management] には、[Overview] ページで選択した Catalyst Center について、インストールされている使用可能なアプリケーションまたは最新のシステム情報が表示されます。

[Overview] ページで選択したコントローラの [Controller Details] ウィンドウで [Software Management] をクリックすると、システムは対応するコントローラのページを相互起動します。

グローバル検索

グローバル検索ボックスは、Catalyst Center Global Manager ホームページの右上隅にあります。MAC アドレス、プラットフォーム、ソフトウェアバージョン、および IP アドレスに基づく検索をサポートしています。これを使用して、次のカテゴリを検索できます。

- デバイス
- エンドポイント
- アプリケーション
- サイト
- Users

たとえば、Catalyst Center Global Manager ホームページで、右上のグローバル検索バーをクリックすると、デバイス、エンドポイントなどを検索できます。コントローラ間で検索するデバイスのホスト名文字列を入力または入力できます。

ホスト名を最後まで入力する必要はありません。たとえば、**Core** と入力すると、名前に **Core** が含まれるすべてのデバイスが表示されます。次に、[More results...] をクリックしてデバイスのリストを展開します。その後、リストからデバイスを選択して、より詳細な情報にアクセスします。自動検索機能は動作していません。検索を開始するには、**Return** キーまたは **Enter** キーを押すようにしてください。一致する検索結果が左側のパネルに表示されます。

[Device 360] をクリックします。[Cross Launch] ダイアログボックスが表示されます。次に、[Confirm] をクリックして、Core-01 デバイスが配置されているコントローラからそのデバイスの [Device 360] ページに移動します。

他の検索カテゴリでも同じことを行うことができます。クライアントの名前または IP アドレスを入力することで、その名前を持つネットワークデバイスまたはクライアントのリストを取得できます。

クライアントの 1 つをクリックして、コントローラのクライアントの [Client 360] ページに移動します。



- (注) グローバル検索では、クロス起動機能だけでなく、デバイス名、シリアル番号、接続された Catalyst Center またはコントローラ、バージョン番号の表示といった、さまざまな機能も提供されます。これらの機能は、アプリケーション、エンドポイント、およびその他の要素でも利用できます。

Workflows

Catalyst Center Global Manager Cisco VMS は、特定のイベントの発生時における通知のトリガーをサポートしています。これにより、イベント通知を受信する任意の方法を選択できます。サポートされている通告チャンネルは次のとおりです。

- [EMAIL] : 電子メール通知を送信します。
- [PAGERDUTY] : イベント通知を **Pagerduty** に投稿します。
- [REST] : **HTTP** プッシュ API を介してデータを送信します。
- [SNMP] : **SNMP** トラップを介してデータを送信します。
- [SYSLOG] : **Syslog** サーバーにデータを送信します。
- [WEBEX] : イベント通知を **Webex** に投稿します。

開発者用ツールキット

[Developer Toolkit] ページには、Catalyst Center Global Manager 環境内でアプリケーションを作成および管理するための新しいインテント API が用意されています。

開発者ツールキットを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Platform] > [Developer Toolkit] をクリックします。

このツールキットは、新しい一連のインテント API を提供します。

- 認証
- イベント管理
- 自社のネットワークを知る
- サイト管理
- システム

これらの API の詳細については、[APIs] GUI で提供される **Swagger** ドキュメントを参照またはダウンロードしてください。

アクティビティ

[Activities] ページでは、Catalyst Center Global Manager の監査ログの詳細を表示できます。

監査ログを表示するには、Catalyst Center Global Manager ダッシュボードに移動し、[Activities] > [Audit Logs] の順にクリックします。

Catalyst Center Global Manager の監査ログに含まれるのは、ログインしているユーザーによって実行されたシステム内のさまざまなアクティビティやイベント、ユーザーログインオプションなどのシステムレベルの変更、Catalyst Center Global Manager から開始されたコントローラの操作、コントローラの接続ステータスに関する詳細情報です。

次の情報を出力します。

- 作成された日付と時刻
- 説明
- カテゴリ (Category)
- 重大度 (Severity)
- ユーザー



- (注)
- 次の期間について、検索の概要を絞り込むことができます。
 - 過去 2 週間
 - 過去 7 日間
 - 過去 24 時間
 - 過去 3 時間
 - 日付
 - また、次のようにさまざまなシビラティ（重大度）レベルに基づいて分類することにより、検索の概要を絞り込むこともできます。
 - critical
 - warning
 - info

Catalyst Center Global Manager は、次の操作を監査します。

- すべてのユーザーログイン
- 以下を含む、Catalyst Center Global Manager の操作：

- バックアップおよび復元
 - アップグレード
 - ユーザーの作成
 - AAA サーバーの設定
 - コントローラの登録または登録解除
 - コントローラの接続ステータス（到達可能または到達不能）の変更
- Catalyst Center Global Manager から開始されたコントローラの操作

システム

[System] ページでは、Catalyst Center Global Manager のこれらの基本的な詳細を表示できます。

- [System 360] タブは、Catalyst Center Global Manager で実行されているアプリケーションスタックとサービスに関する詳細情報を提供します。Catalyst Center Global Manager における System 360 GUI は、クラスターツールの下でモニタリングのみをサポートします。

System 360 GUI は、ホストの下にあるクラスタレベルのサービスを視覚化し、クラスターツールを介してサービスをモニターできます。また、ソフトウェア管理やバックアップに関する情報などのシステム管理操作も提供します。バックアップ内で、NFS ストレージ構成を表示できます。したがって、サポートされているのは次の 4 つの機能です。

- ホスト
- クラスタツール
- ソフトウェア管理
- バックアップ

[Monitoring] : オープンソースメトリック分析および可視化スイートである Grafana を使用して、Catalyst Center Global Manager コンポーネントの複数のダッシュボードにアクセスします。[Monitoring] ツールを使用して、メモリおよび CPU 使用率などの主要な Catalyst Center Global Manager メトリックを確認および分析します。



(注) マルチホスト Catalyst Center Global Manager 環境では、複数のホストによる Grafana データの重複が予想されます。

- [System Health] : Catalyst Center Global Manager の正常性とトポロジに関する詳細情報が提供され、Catalyst Center Global Manager の検証ツールを実行できます。

[System Health] トポロジ表示で、Catalyst Center のノードのいずれかをクリックして詳細を表示します。[Controllers] ページの [Controller Details] と同様に [Controller Details] が一覧表示されます。

- コントローラ名
- 詳細の表示
- コントローラの IP アドレス
- 接続
- 正常性ステータス
- 説明
- コントローラの種類
- エンタープライズ VIP
- クラスタ構成
- ノードホスト名
- ノードのヘルス
- ノードのシリアル番号
- システムバージョン
- クラウドメンバー ID
- 直近収集日

[System Health] ページで、[Tools] ドロップダウンから [Validation Tool] を選択して、検証処理とステータスを表示します。検証ツールは、次の情報を提供します。

- 名前
- 説明
- 選択されたセット
- ステータス
- 開始時刻
- 持続時間
- 処理

検証ツールは Catalyst Center Global Manager のシステムの状態を評価するための提供されており、オンデマンドで実行できます。このツールは、「infra」と「upgrade」の2つのセクションに分かれており、それぞれに固有の検証セットが含まれています。これらの検証は、Catalyst Center Global Manager リリースの一部として提供されます。

さらに、同じ検証が検証カタログにアップロードされます。検証セットを更新するには、[System] > [Settings] > [System Health] に移動して、最新の検証セットをダウンロードしてインポートします。

[Refresh] をクリックして、ネットワークデバイスとコンポーネントについて表示されている正常性ステータスを表示します。これにより、システムの正常性とパフォーマンスに関する最新情報を確認できます。

- [Software Management] : すべてのアプリケーションまたはシステム更新、およびアプリケーションのステータス。

[View Installed Applications] または [View Release Activities] をクリックして、更新の詳細を表示します。



- (注) 更新には、その横にカラーバッジが付きます。緑色のバッジは、更新または更新に関連するアクションが正常に完了したことを示します。黄色のバッジは、使用可能な更新があることを示します。

- [Backup and Restore] : 最新のバックアップのステータス。Catalyst Center Global Manager のバックアップ設定では、ネットワークファイルシステム (NFS) と物理ディスクバックアップの両方を設定できます。[Now] または [Daily] のいずれかのオプションでバックアップをスケジュールします。
- [Settings] : Catalyst Center Global Manager 次の詳細を提供します。

- **証明書**

- [System Certificates] : サーバーの現在アクティブな SSL 証明書に関する情報、または証明書を置き換える方法に関する情報。

- **外部サービス (External Services)**

- [Destinations] : Catalyst Center Global Manager からイベント通知を配信するように、ウェブフック、電子メール、syslog、および SNMP のタイプの接続先を設定できます。
- [Cisco Catalyst Cloud] : Catalyst Center Global Manager を Cisco Catalyst Cloud に登録して、Catalyst Center Global Manager の設定にアクセスしてダウンロードできます。



- (注) 設定ページには、[First Time Setup] ワークフローを通じて要求された Catalyst Center Global Manager 構成が表示されます。

登録を解除すると、Catalyst Center Global Manager プロファイルが要求解除され、サーバーに登録されているすべてのコントローラが登録解除されます。これに続

いて、Catalyst Center Global Manager にコントローラの不在メニューが表示されます。

• システム設定

- [System Health] : Catalyst Center Global Manager を最新の検証カタログで更新できます。検証カタログは、実行する特定のチェックまたはテストを定義する検証セットのリポジトリとして機能します。

Catalyst Center Global Manager の検証カタログを更新する目的は、一連の検証チェックまたはテストを最新かつ正確で関連性の高い状態に保つことです。この更新により、検証ツールがシステムチェックを実行するために使用する検証基準のリポジトリが更新され、新たな問題の検出が有効になります。

- [Proxy] : インターネットにアクセスするためのシステムプロキシ設定。
- [Debugging Logs] : 内部プロセスとエラーのロギングを設定するフォーム。
- [Backup Configurations] : バックアップのマウントパス、暗号化パスフレーズ、データ保持の設定。
- [Authentication API Encryption] : AES 暗号化設定の構成。
- [Integration Settings] : プラットフォームの詳細設定。
- [Login Message] : ユーザーがログインしたときのメッセージ。

• 利用規約

- [Product Offer] : Catalyst Center Global Manager の一般的な利用規約。Catalyst Center Global Manager はシスコ一般条件https://www.cisco.com/c/dam/en_us/about/doing_business/legal/Cisco_General_Terms.pdf (旧「エンドユーザーライセンス契約」) のみに準拠します。

• 信頼性とプライバシー

- [Account Lockout] : ユーザーログインの試行回数、アカウントロックアウト時間、およびログイン再試行の管理。
- [Password Expiry] : ユーザーパスワードの有効期限チェックの設定。
- [IP Access Control] : アクセス制限用の IP アドレスリストの設定。
- [Product Telemetry] : Catalyst Center Global Manager の製品テレメトリ利用規約。Catalyst Center コントローラは、製品体験を向上させるためにシステム情報 (旧「製品使用状況テレメトリ」) を収集します。Catalyst Center Global Manager は、システム情報を収集または処理しません。
- [Users & Roles] : ユーザーおよびロールの両方を使用したアクセス管理。Catalyst Center Global Manager 各ユーザーには、コントローラ機能にアクセスするための権限が割り当てられます。

- **[Role Based Access Control]** : Catalyst Center Global Manager のロールベースのアクセス制御 (RBAC) は現在、デフォルトのロール (スーパー管理者ロール、オブザーバロール、およびネットワーク管理者ロール) のみをサポートしています。カスタムロールの作成はサポートされていません。さらに、Catalyst Center Global Manager と Catalyst Center の間で同じユーザーに対する権限に不一致がある場合、Catalyst Center Global Manager のユーザーエクスペリエンスに影響が出る可能性があります。たとえば、サイトベースの制限やカスタムロールが原因で、Catalyst Center Global Manager のユーザーが Catalyst Center と同じ権限を持っていない場合、Catalyst Center Global Manager はユーザーのアクセス権限に基づいて限定されたデータを表示できます。

また、カスタムロールまたはサイトベースのユーザーによる、Catalyst Center から Catalyst Center Global Manager へのアクセスは現在サポートされていないため、最適なユーザーエクスペリエンスが得られない場合があります。

- **[SUPER-ADMIN-ROLE]** : Catalyst Center Global Manager 展開を完全に制御でき、すべてのアクセス権限が有効になります。
- **[OBSERVER-ROLE]** : 読み取り専用アクセス権を持ち、システム設定内の特定の機密データを表示できません。
- **[NETWORK-ADMIN-ROLE]** : システム設定を変更する機能を持たない汎用目的のロールです。

Catalyst Center Global Manager のインストール時に、ネットワーク管理者権限を持つユーザーが作成されます。ネットワーク管理者ロールのユーザーは、Catalyst Center Global Manager でローカルユーザーを作成できます。

- **External Authentication** : Catalyst Center Global Manager は、アクセス制御のために外部の認証、許可、およびアカウンティング (AAA) サーバーをサポートします。外部ユーザーの認証と許可に外部サーバーを使用している場合、Catalyst Center Global Manager で外部認証を有効にする必要があります。デフォルトの AAA 属性設定が、既定のユーザープロファイル属性と一致します。

Catalyst Center Global Manager では、AAA-RADIUS/TACACS または Cisco ISE サーバータイプのいずれかを使用した外部認証が有効になります。外部認証プロセスはローカルユーザー認証を無効にします。



- (注) 外部認証が特定の Catalyst Center で有効になっていて、Catalyst Center Global Manager と統合されている場合、ユーザーが外部認証を使用して少なくとも1回ログインしていないと、この Catalyst Center への相互起動は失敗し、このコントローラに固有のデータは取得されません。ユーザーは、Catalyst Center Global Manager のコントローラ固有のデータを表示したり、相互起動を実行したりする前に、Catalyst Center に少なくとも1回ログインする必要があります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。